

## § 3 経済施策の概要

# 令和4年度 経済部運営方針

経済部長 小林 利行

## 組織の使命

経済部は、商工業をはじめとする産業の振興および雇用・労働政策に関わる業務を担当しています。

**経済部の使命は、地域経済の強化を図ることです。**

地域経済を支える中小企業や小規模事業者が活力を維持し、成長を続けていくためには、地域内の経済循環を高めることが重要です。

そのためには、企業の生産性向上や販路拡大を支援し、稼ぐ力を高めるとともに、地産地消の促進による域内好循環を構築し、地域で働く人々の所得の向上と新たな雇用機会の創出を図ってまいります。

関係機関と連携し、地域の企業や働く人々の声をお聞きしながら、社会経済情勢の変化に対応した経済施策に取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、地域経済にこれまで経験したことのない甚大な影響が生じていることから、感染症拡大防止に取り組むとともに、収束後の地域経済回復に向け全力で取り組んでまいります。

## 組織の基本方針

- **積極的に企業誘致を展開するとともに、地元企業を元気にします**  
積極的に企業誘致に取り組むとともに、ITやロボットなど先端技術を活用し中小企業や小規模事業者の生産性向上や地元企業のDX推進を支援するほか、将来的なIT人材の裾野の拡大やIT分野のレベルの底上げを図ります。
- **食の価値を高め、多くの人を呼び込むとともに、販路の拡大につなげます**  
「海外展開」と「魅力向上」を軸に飲食事業者や食品加工業者など食関連事業者への支援を行い、函館の「食」の価値向上に努め、函館を訪れる人を増やし、地域産品の販路拡大につなげます。
- **商店街や中心市街地の活性化を図り、賑わいのあるまちにします**  
商店街の振興や中心市街地の活性化を図り、地域の魅力向上のほか、交流人口の拡大に努め、まちの賑わいを創出します。
- **雇用の拡大を図るとともに、労働力の確保に努めます**  
関係機関との連携により、雇用機会の創出拡大に努めるとともに、若者の就職促進と女性・高齢者等の多様な人材活用を図ります。
- **新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組むとともに、地域経済の回復を図ります**  
新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組むとともに、様々な経済対策により地域経済の回復に向け全力で取り組みます。

## 主要施策・事務事業

### 1 金融、産業政策、中小企業支援

#### ① 金融支援

- ★ 市内中小企業の金融の円滑化を支援します。
- ★ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い影響を受けている事業者に対し、資金繰りを支援します。

#### ② 中小企業の振興

- ★ 中小企業振興基本条例に基づき、本市の地域経済の発展に重要な役割を果たす中小企業の多様で活力ある成長発展を促進します。

#### ③ ふるさと納税

- ★ 市内の産品やサービス等を返礼品として活用することで、地場産品の消費拡大や本市への来訪を促進し、経済の活性化を図ります。

### 2 食産業の振興

#### ① 食の産業化の推進

- ★ 「はこだてフードフェスタ」の開催やウェブサイトによる情報発信、料理人や飲食店経営者、小中高生を対象とした「食の担い手」育成事業などに取り組むとともに、道外でのイベント参加などによる食の魅力向上を目指します。

- ★ 関係団体と一体となって、函館スイーツのブランド化への取り組みを進めます。

#### ② 地場産品の販路拡大（国内）

- ★ 全国の百貨店で開催される北海道の物産展と観光展や青函物産展に参加します。  
また、全国各地の食品スーパー等において「函館フェア」を開催するなど、地域産品のPRや地域企業の販路拡大を支援します。

- ★ 東京都内で函館市アンテナショップを運営し、地域産品のPRに努めます。

- ★ 消費者やバイヤーから選ばれるような商品の魅力の伝え方やインターネット販売の効果的な活用方法などのセミナーを開催し、事業者の販売力と発信力の向上を図ります。

#### ③ 地場産品の販路拡大（海外）

- ★ 北米西海岸およびASEAN諸国を主な有望市場と定め、輸出ビジネスの支援に従事する地域おこし協力隊員を活用して、これらの市場にマッチした商品開発の支援や、オンラインなどを活用した商談会開催など、輸出促進を図ります。

- ★ 海外展示商談会への出展および輸出向けHACCP等の認証取得の支援に取り組みます。

#### ④ イカ不漁対策の総合支援

- ★ 記録的なイカ不漁により深刻な影響を受けているイカ加工業者の魚種転換を促すため、機械設備の導入・改修を支援します。

### 3 商店街の振興、中心市街地の活性化

#### ① 商店街の振興

- ★ 商店街や小売市場等が自ら企画・実施するイベント事業や、特色ある商店街づくりを促進し、継続的な集客につなげることを目的として実施するチャレンジショップ等の出店や商店街等個々の課題解決に取り組む事業を支援するほか、商店街等が自ら空き店舗を活用し地域課題の解決や賑わい創出等を目的として取り組む先導的な事業の実施に要する空き店舗の改修に係る費用の一部について支援します。

#### ② 中心市街地の活性化および賑わいの創出

- ★ 中心市街地の活性化、賑わいの創出を図るため、「はこだてみらい館」、「はこだてキッズプラザ」においては、既存の機器を生かしながら、新たなコンテンツの導入や拡充を図り、施設の魅力度を向上させるほか、各種事業を展開し、市民のほか、修学旅行生などの更なる利用者の増加に努めます。また、「函館コミュニティプラザ」においては、市民の交流スペースとしての活用を促すほか、各種事業を展開します。
- ★ 駅前・大門地区の冬期間の賑わい創出や新型コロナウイルス感染症拡大の影響による地域の閉塞感を払拭するため、駅前・大門地区の新たな魅力を発信する「はこだてグリーンプラザイルミネーション」を実施します。
- ★ 棒二森屋跡地において、地域の賑わい創出に向けて効果が高まるよう、函館駅前東地区にふさわしい公共施設の整備を検討するための調査等を行います。

#### ③ プレミアム付商品券の発行

- ★ 市民の消費を促進し、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、影響を受けた地域経済の回復に資するため、プレミアム付商品券の発行事業を実施します。

#### ④ 適正な計量検査の実施

- ★ 公正な取引を確保するため、計量器を使用する市内事業所等への定期検査や量目検査を実施し、不適正な計量器や商品の早期発見および排除に努めるとともに、計量展など、計量に関する諸事業により、市民が身近に感じる計量行政の推進に努めます。

### 4 工業の振興

#### ① IT産業の振興

- ★ 将来的なIT人材の裾野の拡大やIT分野のレベルの底上げを図るため、プログラミングコンテストやITカンファレンスを開催するなど、年齢やレベルに応じた様々な取り組みを進めるほか、ITやロボット等の先端技術を活用し、生産現場への導入を支援し、中小企業や小規模事業者の生産性向上やDX推進を支援します。

## ② 創業者への支援

★ 函館地域産業振興財団や北斗市、七飯町と連携し、創業予定者や創業者を対象に効果的に支援事業を実施し、新規事業や雇用の場の創出を図ります。

特に、若者向けの創業支援事業については、将来の社会の担い手である若者の創業を促進させるための意識醸成事業のほか、若者創業者に対する販路拡大の機会提供や助成金等を通じ、地域経済の活性化に貢献する人材の育成・支援に取り組みます。

## ③ 地元企業の事業機会の拡大

★ 産学官金が協力して地域資源をPRするシティセールスを首都圏をはじめ全国で展開し、企業間ネットワークの拡大を図ります。

★ 地元ものづくり企業と国内企業とのビジネスチャンスを提供するため、(公財)函館地域産業振興財団が実施している販路拡大のための展示・商談会向け助成制度に函館市企業枠を設け、新たなビジネスチャンスの獲得を支援します。

## ④ 新製品開発や高付加価値化の支援

★ 産学官金の連携により、函館マリンバイオクラスターの形成や大学等の研究成果を活用し、新製品の開発や高付加価値化を支援します。

## ⑤ 再生可能エネルギーの導入支援

★ 再生可能エネルギーのさらなる普及のため、これまで補助を行っていた太陽光発電システムやリチウムイオン蓄電池に加え、エネルギー源の多様化などに資する新規技術である電気自動車等の購入に対しても新たに支援を行うほか、民間事業者による大規模太陽光発電や地熱発電などの事業化を支援するなど、ホームページ等を活用しながら、再生可能エネルギーに対する情報の市民への周知に取り組みます。

## 5 企業誘致の推進

★ 「企業立地の促進に関する条例」に基づく補助制度の活用やワーケーションをきっかけとした首都圏企業等へのシティセールスを精力的に進めながら、サテライトオフィスの整備等により誘致企業の受け入れ体制の強化や、「ものづくり産業アンバサダー制度事業」を効果的に活用した誘致対象企業の発掘、さらには、コロナ禍の企業活動の中で定着してきたテレワークを活用した新たな取り組みを検討するなど、アフターコロナを見据えた企業誘致を積極的に推進します。

★ 誘致した企業と地域の企業や高等教育機関との連携を図り、誘致企業と地域の有機的な関係を築くことで立地企業の持続性を高めるとともに、地場企業の活性化につなげます。

## 6 安定的な雇用の創出・拡大と労働力の確保

- ★ 生産年齢人口の減少に伴う労働力不足に対応するため、市内企業の採用活動を支援し、若者の本市への就職促進を図るとともに、女性や高齢者等の多様な人材の就業支援に取り組むほか、企業に専門家を派遣活用し、企業の多様な働き方による雇用を支援するなど、地域の人材確保・活用を図ります。また、外国人材採用相談窓口を開設し、外国人材の活用を検討する企業に対し、在留資格や採用に係る各種制度などの情報発信を行うとともに、専門家による個別相談を行うなど、受け入れ環境の整備を促進します。
- ★ 地域の将来を担う若者の地元への就職の促進に向け、効果的な施策を検討するため、市内学生や若手社員などへアンケート調査を実施します。
- ★ コロナ禍における厳しい雇用情勢の中、公共職業安定所などの関係機関との連携により、離職者等の就職支援に取り組み、安定した雇用環境の創出に努めます。
- ★ 函館の仕事に関するポータルサイト「函館しごとネット」を活用し、U I Jターン希望者と企業のマッチングを図るほか、市内の求職者向けに求人情報を掲載するなど、市内企業の人材確保に努めます。

# 各施策の概要

## I 中小企業の振興

### 1 中小企業振興基本条例に基づく中小企業振興

#### (1) 条例の目的

函館は事業所のほとんどが中小企業であり、中小企業が産業の中心的役割を担っていることから、その振興は地域経済の発展に大きくかかわるものである。条例は、このような中小企業の重要性についての認識を市、中小企業者等、市民が共有し、施策を総合的に推進し、中小企業の振興と地域経済の発展を図ることを目的としている。（平成22年4月1日施行）

#### (2) 条例の基本的考え

ア 中小企業振興の考え方や方向性を示す理念条例

イ 中小企業者の創意工夫と自主的な努力の促進

ウ 市、中小企業者等、市民の3者の協力による中小企業振興

エ 函館の地理的歴史的な背景を踏まえ、中小企業が地域経済の重要な担い手であることを前文で表現

#### (3) 条例で規定する事項

ア 基本理念

イ 市の責務

ウ 中小企業者等の努力

エ 市民の協力

オ 基本方針

カ 財政上の措置

キ 函館市中小企業振興審議会の設置

#### (4) 基本方針

市は、次に掲げる基本方針に基づき、中小企業の振興に関する施策を講ずる

ア 中小企業者の経営の革新および中小企業の創業の促進を図ること

イ 中小企業者の新技術、独創的な技術等を利用した事業活動の促進を図ること

ウ 中小企業者の人材の育成および確保を図ること

エ 中小企業者の経営基盤の強化を図ること

オ 中小企業者等と関係機関との連携、中小企業者等相互の連携その他の連携の促進を図ること

カ 地域の資源の活用等による産業の発展および創出を図ること

#### (5) 函館市中小企業振興審議会委員による意見交換会

ア 実績

##### ①平成28年度

・開催日時 平成28年10月17日（月）

・場所 函館市役所8階第2会議室

・テーマ 業界団体の現状等について

・参加委員 12名

②平成29年度

第1回

- ・開催日時 平成29年5月15日（月）
- ・場所 函館市役所8階第2会議室
- ・テーマ 平成29年度の経済部施策について，人手不足について
- ・参加委員 10名

第2回

- ・開催日時 平成29年10月4日（水）
- ・場所 函館市役所8階大会議室
- ・テーマ ITを活用した生産性向上に向けた取組に関するアンケート調査結果について  
生産性向上に関する事例紹介や意見交換
- ・参加委員 9名

③平成30年度

第1回

- ・開催日時 平成30年7月3日（火）
- ・場所 函館市役所8階大会議室
- ・テーマ 平成30年度の経済部の施策について  
地域経済分析システム（リーサス）を用いた地域経済の分析について
- ・参加委員 13名

第2回

- ・開催日時 平成31年2月14日（木）
- ・場所 函館市役所8階大会議室
- ・テーマ 地域における事業承継の現状と課題等について  
人材確保に関する課題や事例等について
- ・参加委員 13名



## 2 中小企業融資制度

函館市中小企業融資制度は、市内中小企業者等の経営の安定と設備の近代化を目的に、昭和34年に創設されて以来、昭和46年の函館市中小企業振興条例の制定を経て、現在の体系を確立したものである。

その後、時代のニーズや地域経済の変化に対応していくため、昭和60年度、平成7年度、平成15年度、平成21年4月に、それぞれ大きな改正を行っている。

市では、平成21年4月に金融の円滑化を目的に融資制度を見直し、融資相談などの融資業務の一部を函館商工会議所に外部委託した。平成22年3月には、函館市中小企業振興条例に代わり、新たに函館市中小企業振興基本条例を制定し、条例の精神に基づき金融機関の協力のもと協調して融資を行っている。

制度については、平成23年3月11日の東日本大震災により直接被害を受けた方を対象とした「激甚災害緊急特別復旧資金」と「東日本大震災緊急小口運転資金」を、期間を限定してそれぞれ新設したほか、平成25年3月末に期限を迎えた「中小企業金融円滑化法」終了への対応として、平成25年4月に経営改善に努める中小企業者や自然エネルギー発電施設の設置または店舗・工場等の耐震改修を行う中小企業者、中心市街地内で開業する中小企業者に対する優遇利率の設定、既存債務の借換要件の緩和を行い、平成26年4月には、北海道新幹線開業を見据え、青函両地域の活性化に資する事業を行う中小企業者を対象に「青函地域活性化資金」を新設した（平成31年3月末廃止）。

また、平成28年4月には、利用者の利便性の向上を目的に、一般資金における運転資金と設備資金の併用による借入を可能としたほか、イカの加工原料の不足や価格高騰により、経営に影響を受けている水産食料品製造業を営む中小企業者を対象に平成28年12月～平成31年3月末まで優遇利率を設定した。

平成30年4月には、中小企業者の経営効率化を図るため、IT活用による生産性向上に向けた設備投資を対象とした「IT活用生産性向上資金（令和2年4月から「IT・ロボット等活用生産性向上資金」に名称変更）」、イカ不漁のリスク分散対策として、イカ以外の原料への魚種転換に向けた設備投資を対象とした「魚種転換支援資金」を創設した。また、同年9月には、9月6日に発生した北海道胆振東部地震とそれに伴う停電等により被害を受けた中小企業者等の早期復旧と経営の安定を図るため、「緊急対策資金」に通常金利より0.4%引き下げた優遇利率を平成31年3月末までの期間限定で設定し、14件の利用があった。

令和2年2月には、新型コロナウイルス感染症により直接的または間接的な影響を受けている中小企業者等を対象に「緊急対策資金」の適用を開始し、令和4年3月末までに35件の利用があった。

### (1) 融資制度利用状況

#### ア 資金別利用状況

(単位：千円)

資金名・資金使途			平成31(令和元)年度		令和2年度		令和3年度	
			件数	金額	件数	金額	件数	金額
一 資 般 金 支 援	運転資金	運 転	291	3,656,300	147	1,974,500	203	2,715,500
	設備資金	設 備	25	265,006	18	231,120	26	359,290
	小 計			316	3,921,306	165	2,205,620	229
小口ファイト資金		運・設	111	482,590	60	282,180	78	312,970
IT・ロボット等活用生産性向上資金		設 備						
魚種転換支援資金		設 備						
産業活性化資金		設 備	5	232,460	7	226,700	6	241,680
チャレンジ資金		運・設	4	12,500	3	24,000	2	13,500
協同組合等事業資金		設 備						
緊急対策資金		運 転	7	51,000	27	194,000	1	4,000
		設 備						
合 計			443	4,699,856	262	2,932,500	316	3,646,940

## イ 業種別利用状況

(単位：千円)

区 分	平成 31(令和元)年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
建設業	117	1,302,180	68	733,860	99	1,084,800
製造業	54	632,300	24	385,500	34	537,270
情報通信・運輸業	13	126,700	9	76,740	13	169,500
卸売・小売業	125	1,372,106	74	879,340	79	914,390
サービス業	134	1,266,570	87	857,060	91	940,980
合 計	443	4,699,856	262	2,932,500	316	3,646,940

## (2) 資金別預託状況

(単位：千円)

貸付金・資金名		平成 31(令和元)年度	令和 2 年度	令和 3 年度
一般事業	一般支援資金	4,734,910	4,541,090	3,820,260
	小口ファイト資金	773,040	779,320	549,110
	*一般資金(経営活力資金)	620	460	0
	◆一般支援資金(青函地域活性化資金)	107,510	70,860	57,910
小 計		5,616,080	5,391,730	4,427,280
特別緊急	※金融・景気対策資金	43,640	28,730	12,480
	△東日本大震災緊急小口運転資金	640	600	580
	小 計	44,280	29,330	13,060
特定事業	産業活性化資金	1,152,480	1,096,780	966,870
	チャレンジ資金	71,330	69,200	53,500
	IT・ロボット等活用生産性向上資金			
	魚種転換支援資金			
	協同組合等事業資金	40,930	33,240	27,710
	緊急対策資金	70,070	189,330	117,180
	◎激甚災害緊急特別復旧資金	15,240	8,220	1,240
	*テクノパーク立地資金	1,520	1,200	870
小 計		1,351,570	1,397,970	1,167,370
合 計		7,011,930	6,819,030	5,607,710

(注) \*印は、平成15年8月1日現在で既に廃止されている資金であるが、貸付残高があるため預託している。  
 ※印は、平成22年4月1日現在で既に廃止されている資金であるが、貸付残高があるため預託している。  
 ◎印は、平成23年10月1日現在で既に廃止されている資金であるが、貸付残高があるため預託している。  
 △印は、平成24年4月1日現在で既に廃止されている資金であるが、貸付残高があるため預託している。  
 ◆印は、平成31年4月1日現在で既に廃止されている資金であるが、貸付残高があるため預託している。

## (3) 融資制度内容

(令和4年4月1日現在)

資 金 名	融 資 対 象	融 資 条 件				保証協会 信用保証
		資金 使途	融資 限度額 (万円)	融資期間 (うち据置 期間)	融資利率 (%)	
一 般 支 援 資 金	仕入・決済資金等が必要な方	運転	4,000	10年以内 (2年以内)	1.10以内 経営改善企業 0.60以内	信用保証 協会 保証付き
	設備の設置、改善資金が必要な方	設備	6,000	15年以内 (3年以内)	10年以内 1.10以内 経営改善企業 0.60以内 10年超 1.50以内 経営改善企業 1.00以内	
小口ファイト資金	小規模事業者で運転資金や設備資金が必要な方	運転 設備	2,000	10年以内 (1年以内)	0.80以内 経営改善企業 0.30以内	小口零細 企業 保証付き

資金名	融資対象	融資条件				保証協会 信用保証
		資金 使途	融資 限度額 (万円)	融資期間 (うち据置 期間)	融資利率 (%)	
産業活性化資金	設備の近代化や新分野の事業への進出を行う方	設備	20,000	15年以内 (3年以内)	1.30以内 経営改善企業 0.80以内	必要により 保証付き
チャレンジ資金	新たに開業しようとする方等	運転 設備	2,000	10年以内 (2年以内)	1.10以内 中心市街地 0.60以内	
IT・ロボット等活用 生産性向上資金	IT・ロボット等活用による生産性向上のための設備資金が必要な方	設備	6,000	15年以内 (3年以内)	10年以内 0.60以内 10年超 1.00以内	
魚種転換支援資金	イカを原材料として使用した商品を製造または加工する方で、魚種転換による設備資金が必要な方	設備	6,000	15年以内 (3年以内)	10年以内 0.60以内 10年超 1.00以内	
協同組合等事業資金	組合員のための施設の設置や改善を行う協同組合等またはその組合員	設備	3,000 組合等 20,000	15年以内 (3年以内)	0.90以内	
緊急対策資金	地震・風水害・経済危機等の被害により経営の安定を図る資金が必要な方	運転	1,000	10年以内 (2年以内)	1.00以内	
		設備	3,000	15年以内 (3年以内)	10年以内 1.00以内 10年 1.40以内	

※産業活性化資金において、自然エネルギー発電施設の新増設用資金または店舗・工場等の施設の耐震改修用資金に対しては、融資利率より0.5%優遇した利率を適用している。

### 3 金融関連統計

(1) 北海道信用保証協会函館支店の事業状況 (単位：百万円)

区分	保証承諾		保証残高	
	件数	金額	件数	金額
平成31(令和元)年度	2,473	28,973	6,682	56,370
令和2年度	5,825	97,617	9,270	114,796
令和3年度	1,886	23,433	9,519	116,071

資料：北海道信用保証協会

(2) 函館手形交換所管内「手形交換高」と「不渡手形発生状況」 (単位：百万円)

区分	手形交換高		不渡手形				
			発生実数		取引停止処分		
	枚数	金額	枚数	金額	件数	枚数	金額
平成31(令和元)年度	197,750	171,176	144	104	2	3	6
令和2年度	173,163	154,461	3	2	0	0	0
令和3年度	156,383	137,879	24	29	3	5	3

資料：(一社)函館銀行協会

#### 4 事業承継の促進

中小企業庁によると、2015～2025年までの間に70歳（平均引退年齢）を超える中小企業・小規模事業者の経営者は全国で約245万人となり、うち約半数の127万人（日本企業全体の1/3）が後継者未定となっている。現状を放置すると、中小企業廃業の急増により2025年頃までの10年間の累計で約650万人の雇用と、約22兆円のGDPが失われる可能性がある」と指摘されている。

本市においても、民間の調査によると6割以上の企業が後継者不在であり、事業承継は地域経済の活力を維持していくにあたり大きな課題となっていることから、市内事業者の事業承継に関する現状や課題を把握し、後継者等の育成に係る研修の実施、事業承継に関する様々な不安や課題を無料で相談できる個別相談会の開催や、事業承継に関する情報提供等の支援により事業承継の促進を図る。

##### (1) アンケート調査の実施

市内事業者の事業承継に関する現状や課題等を把握することを目的に、アンケート調査を実施。

令和3年度 会社以外の法人と農林漁業を除く、市内に本店を置く全事業所  
調査数 8,383件 回答数 3,200件

##### (2) 後継者向け研修の開催

中小企業大学校旭川校と連携して後継者向け研修（サテライト・ゼミ）を開催し、後継者の育成を支援する。

令和3年度 次世代トップリーダー研修～自社の未来を切り拓く信頼されるリーダーを目指して～  
開催日 3月14日、15日 参加者 11名

##### (3) 個別相談会の開催

数年はかかると言われる事業承継の準備には早めに取りかかる必要があることから、相談員となる専門家を招いて市主催の無料の個別相談会を開催し、事業承継に関する課題の発見と早めの準備を促すことで円滑な事業承継を支援する。

令和3年度 開催日 12月8日 参加者 1社

#### 5 倒産集計

(単位:百万円)

区分	平成31(令和元)年		令和2年		令和3年	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
建設業	0 (0)	0 (0)	1 (0)	10 (0)	0 (0)	0 (0)
製造業	1 (1)	234 (234)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2,100 (2,100)
卸・小売業	5 (2)	2,394 (2,215)	3 (3)	667 (667)	2 (1)	180 (130)
サービス業	3 (2)	2,740 (2,730)	1 (1)	3,045 (3,045)	1 (0)	86 (0)
運輸・通信業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0 (0)	0 (0)	1 (1)	151 (151)	0 (0)	0 (0)
合計	9 (5)	5,368 (5,179)	6 (5)	3,873 (3,863)	4 (2)	2,366 (2,230)

資料:函館市経済部調査

(注) 負債金額1千万円以上の倒産(法的整理のみ)。( )内は負債金額1億円以上の大型倒産で、内数。

## II ふるさと納税の推進

これまで、本市のふるさと納税は、自治体への寄附（経済的利益の贈与または無償の供与）であるという趣旨を踏まえ、過度な返礼品による獲得競争を行わず、紙製でカードサイズの函館人証明書や市内製造の水産加工品をお礼として送付する程度に止めていた。

しかし、平成27年度の税制改正により、ふるさと納税の個人住民税の特例控除額の上限引上げやワンストップ特例制度が創設され、全国的にふるさと納税の利用者が急増し、自治体間の返礼品による獲得競争が過熱していった影響により、平成28年度には、本市の個人住民税寄附金控除額がふるさと納税受入額を大幅に超過したことから、財源の流出による市民サービスの低下などが懸念されるため、寄附の獲得を図るべく返礼品（地域産品）の一層のPRに取り組むこととした。

そのため、平成29年度から、民間の寄附申込みサイトの活用と決済手段の多様化や寄附者による返礼品の選択制を導入し、ふるさと納税の推進に取り組んでいる。

※令和4年度財務部より移管

### 1 本市のふるさと納税受入額と個人住民税寄附金控除額の状況 (単位：件、千円)

区分	ふるさと納税受入額 (寄附金収入)		個人住民税 寄附金控除額	差 引	
	件数	金額 A	金額 B	金額 ※収入年度ベース	金額 ※寄附年度ベース
				A-B	A-次年度B
平成20年度	90	5,177	—	—	2,524
平成21年度	54	4,746	2,653	2,093	2,349
平成22年度	47	3,301	2,397	904	283
平成23年度	54	4,846	3,018	1,828	△5,935
平成24年度	67	5,296	10,781	△5,485	3,083
平成25年度	151	14,976	2,213	12,763	12,449
平成26年度	257	10,573	2,527	8,046	2,193
平成27年度	240	17,032	8,380	8,652	△31,023
平成28年度	207	11,380	48,055	△36,675	△77,997
平成29年度	4,211	169,100	89,377	79,723	44,566
平成30年度	10,744	340,921	124,534	216,387	163,395
令和元年度	43,753	579,858	177,526	402,332	391,503
令和2年度	68,750	911,739	188,355	723,384	663,416
令和3年度	53,680	877,080	248,323	628,757	565,524
令和4年度			311,556		

※ 個人住民税控除額は「地方公共団体に対する寄附金」と「他の寄附金を含む分」の合算

### 2 寄附申込みサイトの活用状況

- (1) ふるさとチョイス（平成29年4月～）
- (2) 楽天ふるさと納税（平成30年10月～）
- (3) さとふる（令和2年11月～）
- (4) ふるなび（令和3年9月～）
- (5) ANAふるさと納税（令和4年4月～）

### Ⅲ 商業の振興

本市の商業は、開港、北海道開拓、北洋漁業などによる物資の巨大な集積地として発展してきたが、様々な経済社会変動の影響を受け、現在では主として南北海道地域を商圈とした商業活動を行っており、商圈人口の伸び悩み、大型店の進出などによる流通形態の変化、消費者ニーズの変化等、商業経営を取り巻く環境は大きく変化している。

業種別にみると、卸売業は流通センターをはじめ西桔梗地区に消費財卸を主体に集積しており、小売業は全市にわたって路線商店街を形成し、主要な商業地として、本市を代表する駅前・大門地区、本町・五稜郭・梁川地区のほか、人口の北東部移動および大型店の出店などに伴って発展した美原地区等がある。

本市の近年における商品販売額（飲食店を除く）は、平成19年8,361億円、平成26年6,947億円、平成28年7,802億円となっており、

小売業においては、相次ぐ大型店の出店により大きな変化がみられ、全小売業に占める大型店（店舗面積が1,000㎡を超える店舗）の店舗面積シェアは、平成28年6月現在で82.2%となっている。

区 分		平成16年	平成19年	平成26年	平成28年
卸売業	商店数	995	878	657	702
	従業員数（人）	7,511	6,844	4,798	5,291
	販売額（万円）	60,459,000	50,745,500	40,809,700	45,123,894
小売業	商店数	3,281	3,091	2,030	2,173
	従業員数（人）	20,047	19,134	14,462	15,949
	販売額（万円）	34,763,200	32,868,300	28,663,900	32,897,535
計	商店数	4,276	3,969	2,687	2,875
	従業員数（人）	27,558	25,978	19,260	21,240
	販売額（万円）	95,222,200	83,613,800	69,473,600	78,021,429

区 分		平成16年	平成19年	平成26年	平成28年
卸売業	1店当たり従業員数（人）	7.5	7.8	7.3	7.5
	1店当たり販売額（万円）	60,763	57,797	62,115	64,279
小売業	1店当たり従業員数（人）	6.1	6.2	7.1	7.3
	1店当たり販売額（万円）	10,595	10,634	14,120	15,139
	1店当たり店舗面積（㎡）	112.8	122.6	183.2	182.1

資料：商業統計（平成16～26年）、経済センサス（平成28年）

※平成16年の数値は、調査当時の市域の数値で組み換えを行っていない。

※平成26年の数値は、商業統計調査方法等の大幅変更があり、前回調査の平成19年の数値と接続しない。

※平成28年の数値は、「経済センサスー活動調査」の卸売業、小売業確報結果を函館市が独自集計したもの。

#### ○ 主要大型店の状況（北海道への届出による）

区 分	大型店店舗面積	大型店店舗数
平成27年度	322,674㎡	75店
平成28年度	325,207㎡	77店
平成29年度	327,914㎡	79店
平成30年度	334,093㎡	83店
令和元年度	335,540㎡	84店
令和2年度	335,540㎡	84店
令和3年度	324,475㎡	84店

（函館市経済部調べ）

1 魅力ある商店街，小売市場の形成

商店街等は，本市の地域経済の活性化にとって重要な役割を果たしているほか，地域コミュニティが衰退しているなか，地域の核となる存在として非常に重要な役割を果たしている。本市には，数多くの商店街や小売市場があり，函館市商店街連盟会員をはじめとする20を超える団体がイベント等の開催などを通じて各商店街等の活性化に取り組んでいるところであるが，インターネット通販の普及や消費者ニーズの多様化，大型店の立地などにより，商業環境が変化してきている。こうしたなか，商店街や小売市場の活動を支援し，個店の魅力向上や商店街，小売市場の活性化を図る。

(1) 商店街等イベント開催補助金（令和2年4月1日施行）

各商店街等が実施するイベントは地域の賑わいにつながるものであることから，商店街等が実施するイベント事業を支援することにより，商店街等の賑わい創出を図るとともに，イベントを通じて商店街等の周知を図り，顧客の獲得の促進を目的とする。

- ア 交付対象者 商店街振興組合，商店街連盟に所属する団体，小売市場，商工会等
- イ 交付対象事業 商店街等の周知を図り，顧客の獲得を目的として実施するイベント開催事業
- ウ 交付額 ① 商店街振興組合，商店街連盟に所属する団体，小売市場 50万円  
② 商工会：100万円

年度	交付団体数	事業費合計額（千円）	補助金決算合計額（千円）
令和3年度	4	2,254	1,069

令和3年度の実施状況は次のとおり

No.	団体名	実施事業名
1	函館都心商店街振興組合	・函館大門ジャズフェスティバル2021【中止】
2	五稜郭商店街振興組合 協同組合五稜郭	・五稜郭まちなかオープンテラス
3	美原商店街振興組合	・美原商店街 お客様感謝夏たからくじ

(2) 商店街等持続化支援事業補助金（令和2年4月1日施行）

商店街等の区域内に存在する空店舗等の活用や，商店街等が自らの課題の解決に取り組むために提案するイベント以外のソフト事業などを支援することにより，特色ある商店街等づくりを促進し，継続的な集客につなげることを目的とする。

- ア 交付対象者 商店街振興組合，商店街連盟に所属する団体，小売市場，商工会等
- イ 交付対象事業 【空店舗等出店型】  
チャレンジショップ出店事業，アンテナショップ出店事業  
【インバウンド向け事業実施型】  
商店街等でインバウンドの増加に伴う経営環境の変化やニーズに対応するため，受入環境を整備するために実施するソフト事業
- ウ 交付額 【提案型事業】  
新商品開発事業，地域資源活用事業，伝統・文化復活事業，IT・情報化推進事業，地域通貨等発行事業，商店街等を紹介する冊子，マップ等作成事業  
【空店舗等出店型】および【インバウンド向け事業実施型】 200万円  
【提案型事業】 50万円

年度	交付団体数	事業費合計額（千円）	補助金決算合計額（千円）
令和3年度	1	751	500

令和3年度の実施状況は次のとおり

No.	団体名	実施事業名
1	中島町商店街振興組合	【提案型事業】 ・IT・情報化推進事業

(3) 商店街等年末年始消費拡大支援事業補助金（令和3年11月26日施行）

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛や観光客の激減により影響を受けた商店街等が実施する消費の拡大に資する事業を支援することにより、地域経済の回復を図ることを目的とする。

- ア 交付対象者 商店街振興組合、商店街連盟に所属する団体、小売市場、商工会等  
 イ 交付対象事業 商店街等が実施する商品券発行事業等の消費拡大事業  
 ウ 交 付 額 500万円

年 度	交付団体数	事業費合計額（千円）	補助金決算合計額（千円）
令和3年度	16	82,062	49,851

令和3年度の実施状況は次のとおり

No.	団 体 名	実施事業名
1	函館都心商店街振興組合 函館大門街商興会	・【年末】 駅前・大門歳末大抽選会 ・【年始】 駅前・大門大感謝祭
2	中島町商店街振興組合 中島町仲通り商店街	・2021中島れんばいプレミアム付商品券発行
3	協同組合五稜郭 五稜郭商工親和会 函館梁川商興会	・五稜郭ニューイヤーとってもお得な招福フェア
4	湯川商店街振興組合 湯川温泉商工親和会	・湯川商店街スタンプラリー
5	美原商店街振興組合	・美原商店街「新春宝くじ」
6	函館朝市協同組合連合会	・函館朝市プレミアム付き商品券発行事業
7	函館自由市場協同組合	・【年末】 歳末大感謝セール ・【年始】 新春お年玉プレゼントワクワクスタンプラリー
8	函館東商工会	・函館東商工会2022新春抽選会
9	函館市亀田商工会	・函館市亀田商工会「かめだ応援券」発行事業
10	五稜郭商店街振興組合	・新春ウキウキセール
11	協同組合十字街商盛会	・十字街商盛会プレミアム付き商品券発行

(4) 商店街等消費拡大支援事業補助金（令和2年10月22日施行，令和3年3月31日廃止）

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛や観光客の激減により影響を受けた商店街等が実施する消費の拡大に資する事業を支援することにより、地域経済の回復を図ることを目的とする。

- ア 交付対象者 商店街振興組合、商店街連盟に所属する団体、小売市場、商工会等  
 イ 交付対象事業 商店街等が実施する商品券発行事業等の消費拡大事業  
 ウ 交 付 額 300万円

年 度	交付団体数	事業費合計額（千円）	補助金決算合計額（千円）
令和2年度	11	44,218	31,579

(5) 商店街等販売促進事業情報発信（タブロイド紙の発行）

新型コロナウイルス感染症拡大による観光客の激減やイベント・外出の自粛等により大きな影響を受けた商店街等をはじめとする生活必需品以外の小売店や百貨店などに対し、国が実施する「Go To 商店街事業」などの消費喚起事業にあわせ、新しい生活様式に則り実施している感染防止対策の取組や、商店街等のイベント開催情報、店舗・商品紹介などを掲載した情報誌を発行し、市民が安心して買い物・飲食ができるよう周知するとともに、消費喚起を促し、地域経済の回復を図ることを目的とする。

- ア 発 行 部 数 10万部

(約9万部を北海道新聞に折り込み市内戸別配布，約1万部を参加店・公共施設等で配布)

- イ そ の 他 参加店舗ステッカーの作成・配布，情報誌掲載内容を用いたWebでの情報発信，新聞広告掲載



(6) 函館市元気いっぱい商店街等支援交付金（平成23年7月20日施行，令和2年3月31日廃止）

市民の日常生活を支える地域の商店街等は，非常に重要な役割を担っていることから，市民に商店街等の魅力を再認識してもらい，その活性化を推進するため，商店街等が地域住民の需要に応じて実施する課題解決と賑わい創出に資する事業を支援し，商店街等の魅力向上や地域商業の活性化を図ることを目的とする。

ア 交付対象者 商店街振興組合，商店街連盟に所属する団体，小売市場，商工会等

イ 交付対象事業 【課題解決型】（平成29年度から実施）

- ・商店街アンテナショップ，各世代交流スペースの設置運営
- ・買い物弱者対策（御用聞き，配送，送迎サービス）
- ・国内観光客対応
- ・商店街ブランド・商品の開発とPR

【賑わい創出型】

- ・集客イベント事業（夏祭り，歳末大売出し等）
- ・過去に作成した商店街マップの改訂版の作成

ウ 交付額 「課題解決型」「賑わい創出型」の区分ごとに，交付対象者の会員等の数に応じて，300千円～3,000千円の8区分の間で上限額を設定し，上限の範囲内で交付対象経費全額を交付。

年度	課題解決型		賑わい創出型		合計	
	件数（件）	交付額（千円）	件数（件）	交付額（千円）	件数（件）	交付額（千円）
23	—	—	16	28,196	16	28,196
24	—	—	18	34,748	18	34,748
25	—	—	17	31,488	17	31,488
26	—	—	17	34,610	17	34,610
27	—	—	18	34,816	18	34,816
28	—	—	16	33,788	16	33,788
29	7	6,635	15	20,474	22	27,109
30	5	5,398	14	20,598	19	25,996
31	4	4,500	12	17,856	16	22,356
合計	16	16,533	143	256,574	159	273,107

(7) 函館市中心市街地出店促進補助金（平成25年4月30日施行，令和2年3月31日廃止）

中心市街地における中小企業者等の空き店舗等への新規出店を促進することにより，空き店舗を減少させ，商業店舗の集積による魅力向上および賑わいの創出を図ることを目的とする。

ア 補助対象者 中心市街地のうち，別に定める区域に新規出店する中小企業者等

イ 補助対象経費

①店舗の一部の改装，増築または改築，新築に要する経費

（補助率1/3，補助限度額：1,000千円）

※補助率1/2から1/3に変更（平成30年度より）

②建物の賃借料（平成30年度より廃止）

（補助率1/2，補助限度額：年額600千円，（月額50千円，12ヵ月を限度））

ウ 補助金交付決定状況（令和2年3月末現在）

年度	区 分	函館駅前・大門地区			新川～千代台地区			本町・五稜郭・梁川地区		
		件数 (件)	交付額 (千円)	総事業費 (千円)	件数 (件)	交付額 (千円)	総事業費 (千円)	件数 (件)	交付額 (千円)	総事業費 (千円)
27	改装費補助	2	2,000	16,325	2	2,000	25,073	1	1,000	3,398
	家賃補助	-	-	-	3	900	2,214	-	-	-
28	改装費補助	2	1,953	5,881	0	0	0	5	5,000	13,479
	家賃補助	-	-	-	0	0	0	-	-	-
29	改装費補助	0	0	0	0	0	0	3	3,000	7,169
	家賃補助	-	-	-	1	20	40	-	-	-
30	改装費補助	-	-	-	0	0	0	1	1,000	3,338
	家賃補助	-	-	-	1	220	440	-	-	-
31	改装費補助	2	2,000	8,650	0	0	0	3	3,000	21,124

※函館駅前・大門地区および本町・五稜郭地区は、家賃補助対象外

※家賃補助は平成30年度より廃止となったが、平成30年2月に1件申請があり、改正前の要綱で交付決定したことにより、経過措置を規定し、12ヵ月を限度に交付（平成30年3月～平成31年2月）。

(8) 中合棒二森屋テナント支援補助金（平成30年12月10日施行，平成31年3月31日廃止）

(株)中合棒二森屋店（本館・アネックス館）で営業している事業者のうち、閉店により、函館駅前・大門地区において新たに店舗を構えて営業を行う者やアネックス館のテナントビルとしての営業継続に伴い、新たに同館において営業を行う者を支援することにより、地域における賑わいの創出につなげることを目的とする。

ア 補助対象

①空き店舗等への出店

(株)中合棒二森屋店（本館・アネックス館）で営業している事業者が函館駅前・大門地区内で定める区域にある空き店舗等を活用して営業を行う場合

②アネックス館への出店

棒二森屋閉店後、新たにアネックス館で営業する場合

イ 補助対象経費

①店舗の一部の改装，増築または改築，新築に要する経費

・空き店舗等出店型 補助率1/3，補助限度額：1,000千円

・アネックス館出店型 補助率1/3，補助限度額：500千円

ウ 補助金交付決定状況（平成31年3月末現在）

年度	区 分	件 数 (件)	交付額 (千円)	総事業費 (千円)
30	空き店舗等出店型	1	1,000	3,052
	アネックス館出店型	9	4,156	16,239

2 大規模小売店舗立地法への対応

平成12年6月1日の大規模小売店舗立地法施行に伴い、これまでの商業調整が廃止され、規制緩和の大きな流れを受けることとなった。市内においては、平成13年1月に「函館昭和タウンプラザ」が大規模小売店舗立地法の対象施設として初めて届出を行っており、これを皮切りに大型店の出店計画が相次いでいることから、今後は、交通・騒音対策を主とする周辺地域の生活環境の保持の観点から、北海道などの関係機関と連携を図りながら指導・助言を行っていく。

平成12年度	大規模小売店舗立地法施行	(平成12年6月1日)
平成13年度	函館昭和タウンプラザ (株)ポスフル函館(当時「函館サティ」)	(平成13年1月31日) (平成13年10月31日) ※平成18.8.14廃止届出
平成14年度	ヤマダ電機テックランド函館店 ファッションセンター「しまむら桔梗店」 ファッションセンター「しまむら東山店」	(平成14年6月10日) (平成14年6月27日) (平成14年8月29日)
平成16年度	亀田本町複合施設 ホ・マックス・パ・テ・ポ 石川店・マックスバリュ石川店 (当時「マックス・パ・テ・ポ 石川店」)	(平成16年4月14日) (平成16年9月24日)
平成18年度	ポールスターショッピングセンター コープさっぽろかじ店(建替え) コジマNEW函館店	(平成18年10月18日) (平成18年11月29日) (平成19年1月25日)
平成19年度	フレスポ函館戸倉 スーパー魚長乃木店(建替え) ヤマダ電機テックランド函館2号 函館バス美原ビル 人見ショッピングセンター マックスバリュ堀川店	(平成19年11月9日) (平成19年12月4日) (平成20年1月31日) (平成20年1月31日) (平成20年2月4日) (平成20年2月15日)
平成21年度	ニトリ函館店(建替え) ホームコンビニツルヤ恵山店(増床)	(平成22年2月1日) (平成22年2月12日)
平成23年度	函館人見ショッピングセンター 美原複合商業施設 サッポロドラッグストア函館日の出店	(平成23年4月21日) (平成23年12月2日) (平成24年3月9日)
平成24年度	函館市石川中央ショッピングタウン happii美原 367 函館T-SITE	(平成24年5月14日) (平成24年5月31日) (平成24年12月28日)
平成26年度	スーパーアークス函館大縄店 美原ファッションモール店	(平成26年5月20日) (平成26年10月23日)
平成27年度	田家商業施設	(平成28年1月21日)
平成28年度	サツドラ函館港店 ツルハドラッグ函館的場店	(平成28年5月12日) (平成28年9月30日)
平成29年度	ツルハドラッグ函館桔梗南店 ツルハドラッグ函館日吉店	(平成29年11月29日) (平成30年2月27日)
平成30年度	マックスバリュ函館深堀店 サツドラ函館石川店 マックスバリュ函館若松店 スーパーアークス函館日吉店	(平成30年11月30日) (平成30年12月28日) (平成31年1月10日) (平成31年3月5日)
令和元年度	コープさっぽろとくら店	(令和元年10月8日)
令和3年度	コメリパワー函館西桔梗店 スーパーアークス千代台店 サツドラ函館高盛店	(令和3年6月10日) (令和3年11月1日) (令和3年2月3日)

※ 新設届出のみ掲載

### 3 函館圏流通センターの状況

#### (1) 施設の概要

函館圏流通センターは、函館市、上磯町、大野町および七飯町の1市3町(現在は合併により、函館市、北斗市、七飯町の2市1町)が、圏域の総合的な開発計画の一大事業として建設を進めたもので、用地の造成工事は昭和47年12月に函館圏開発事業団によって始められ、現在、造成地には中核施設である函館市地方卸売市場をはじめ、総合卸売団地、運輸倉庫団地等が建設され、南北海道における流通拠点として大きな役割を果たしている。

所在地	函館市西桔梗町589番地街区
面積	448,805㎡
地目	宅地
用途地域	特別業務地区
総事業費	約179億2千万円

(2) 団地の構成

名称	所在地	事業主体または開設者	工期	規模(m <sup>2</sup> )	総事業費	立地企業
函館市地方卸売市場(青果市場)	西桔梗町589-25	函館市	昭和47~50年	85,806	約31億5千万円	卸売業者(2) 仲卸業者(6) 関連事業者(20) 買参者(241)
総合卸売団地	西桔梗町589-283	(協)函館総合卸センター	昭和48~52年	115,904	約79億1千万円	卸売業者 (組合員数27社)
運輸・倉庫団地	西桔梗町589-157	函館流通事業(協)	昭和49~53年	75,010	約18億1千万円	運輸倉庫業者 (組合員数17社)
函館花き地方卸売市場	西桔梗町589-272	株函館花卉卸売市場	昭和60年	6,200	約2億4千万円	仲卸業者(1) 買受人(97)
関連施設団地	西桔梗町589	各企業(東卸売関連団地)	昭和52~59年	18,569	約11億7千万円	卸売関連業者(12)
	西桔梗町589	各企業(西団地)	昭和54~61年	17,203	約10億9千万円	卸売関連業者(12)

4 その他(イベントの実施)

(1) 函館うまいものまっりの概要

中心市街地のエリアとなった本町・五稜郭・梁川地区の賑わいの創出と回遊性の向上による地区の活性化および函館の食ブランドのイメージアップひいては地域振興を目的として、平成24年度から平成26年度の3カ年にわたり開催した。

開催場所 テーオー小笠原5階屋上, 丸井今井函館店, 五稜郭公園および五稜郭タワーアトリウム  
 実施主体 函館うまいものまつり実行委員会  
 来場者数 平成24年度(11月10日・11日): 10,600人(2日間合計)  
 平成25年度(7月13日・14日): 7,700人(2日間合計)  
 平成26年度(10月11日・12日): 6,410人(2日間合計)

(2) 五稜郭ランチフェスタの概要

中心市街地である五稜郭エリアの魅力発信および賑わい創出を図り、若手企業家有志による既存イベント等と連携した集客イベントを開催した。

開催日程 平成27年10月11日・12日  
 開催場所 五稜郭ガーデン  
 実施主体 五稜郭ランチフェスタ実行委員会  
 来場者数 2,300人(2日間合計)

(3) はこだて夜祭り in グリーンプラザ

函館を訪れる海外からの観光客に新たな夜間観光を提案し、観光客の満足度を高めるとともに、夜間の中心市街地の賑わい創出と消費喚起を目的に、地域住民と外国人観光客が楽しめる日本の文化体験イベントを開催した。

開催場所 はこだてグリーンプラザBブロック  
 実施主体 函館市  
 来場者数 平成30年度(8月15日~17日): 5,808人(内外国人870名)(3日間合計)  
 令和元年度(8月12日~14日): 12,741人(内外国人2,131人)(3日間合計)

(4) はこだておいしいフェスタ

北海道胆振東部地震の発生により、市民の間に漂っていた閉塞感を払拭し、地域の賑わいを創出することで元気を取り戻してもらうことを目的に、地域住民や観光客が楽しめる食のイベントを開催した。

開催日程 平成30年10月6日 ※7日は台風25号の影響により中止  
 開催場所 はこだてグリーンプラザCブロック, 太陽パーキング  
 実施主体 函館市  
 来場者数 5,500人

(5) はこだてグリーンプラザイルミネーション事業「HAKODATE LUMI-POP(はこだてルミポップ)」

はこだてグリーンプラザは、春から秋にはイベントなどが開催され、市民や観光客で賑わっていたところであるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域に閉塞感が漂う状況となっているほか、冬期間は依然として閑散としていることから、大門地区の「冬期間の新たな魅力」を発信し、夜間の賑わい創出を図ること目

的として開催した。

開催日程 令和3年12月1日～令和4年2月28日

開催場所 はこだてグリーンプラザCブロック

実施主体 函館市

## IV 中心市街地活性化の推進

### 1 中心市街地活性化基本計画の策定

#### (1) 計画策定の必要性

本市では、中心市街地活性化法に基づき、平成11年5月に函館駅前・大門地区の約48ヘクタールの区域を対象に中心市街地活性化基本計画を策定し、各種施策を展開してきたが、長引く景気低迷、都市機能の拡散、大規模集客施設の郊外立地、さらには少子高齢化などに伴う人口減少等により、函館駅前・大門地区のみならず本町・五稜郭・梁川地区などを含め、函館市全体が衰退してきている状況にあった。

そこで本市では、今後の人口減少時代に向けた新たなまちづくりの方向性として、市街地の拡大抑制や既存ストックの活用、都市機能の集約化、公共交通の維持・充実などに取り組むコンパクトなまちづくりを進めることとし、中でも中心市街地は経済および社会の発展に果たす役割が非常に重要であると位置づけ、さらには、北海道新幹線開業を見据え、市民のみならず函館を訪れるすべての人に魅力のあるまちづくりを進めていくことが急務となり、中心市街地の活性化を推進する施策を展開していくため、改正中心市街地活性化法に基づく新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、平成25年3月29日付けで内閣総理大臣の認定を受けた。

#### (2) 計画策定および認定の経緯

- ・平成23年 5月 経済部に専任組織の設置（中心市街地等再生担当）
- ・平成23年11月25日 函館市中心市街地活性化協議会（会長：函館商工会議所 副会頭）の設置  
（法定設置者：函館商工会議所，(株)はこだてティーエムオー）
- ・平成24年12月20日 計画案を活性化協議会へ報告（平成24年度第2回中心市街地活性化協議会総会）
- ・平成25年 1月 9日 活性化協議会から市へ意見書の提出（協議会会長から工藤市長へ手交）
- ・平成25年 2月15日 計画決定
- ・平成25年 2月18日 国へ認定申請
- ・平成25年 3月29日 国から計画認定
- ・平成25年 7月25日 国から計画変更認定（第1回）
- ・平成26年 3月28日 国から計画変更認定（第2回）
- ・平成27年 3月27日 国から計画変更認定（第3回）
- ・平成28年 3月15日 国から計画変更認定（第4回）
- ・平成28年11月29日 国から計画変更認定（第5回）

#### (3) 基本計画の概要

- ア 計画期間 平成25年4月から平成30年3月まで（5か年）
- イ 計画対象区域 約200ヘクタール
- ウ 基本コンセプト 市民生活と歴史・文化、観光が融合した回遊性の高いまちづくり
- エ 基本方針
  - ・賑わいある集客拠点の創出 ー商業と公共公益との連携による賑わいづくりー
  - ・新たな交流を生む都市空間の創出 ー来やすい、回遊しやすい環境づくりー
  - ・魅力ある生活空間の創出 ー街なか居住を推進するための仕掛けづくりー
- オ 活性化の目標
  - ・目標1 「陸・空の交通拠点と観光拠点の回遊による賑わいの創出」
  - ・指標1 中心市街地の年間観光入込客数  
（五稜郭や朝市などの観光地を訪れる観光客数）  
【3,534,000人(H22) → 3,783,000人(H29)】
  - ・目標2 「市民生活に密着した商店街と集客拠点の回遊による賑わいの創出」
  - ・指標2 歩行者通行量

(駅前・大門地区および本町・五稜郭・梁川地区の平日と休日の2日間の平均値)

【40,416人(H24) → 45,551人(H29)】

・指標3 路面電車の乗降人員数

(中心市街地内の路面電車停留所(9箇所)1日当たりの乗降人員)

【9,929人(H23) → 10,903人(H29)】

## 2 はこだてグリーンプラザの概要

「はこだてグリーンプラザ」は、市民が安心して憩い楽しめるコミュニケーションの場として、昭和48年に造成されて以来、広く市民や観光客に利用されてきた。

また、平成13年度から15年度には、再整備を行い、函館都心商店街振興組合をはじめとする民間事業者主催によるイベントやフリーマーケット等に活用されている。

ブロック名	幅員	延長	整備年度	事業費	主な施設
Aブロック	14.5m	122.6m	平成15年度	146,928千円	遊歩道, 遊具
Bブロック	14.5m	108.0m	平成13年度	135,870千円	イベント広場, 時計塔など
Cブロック	14.5m	100.0m	平成14年度	158,838千円	イベント広場, 公衆トイレ

年 度	グリーンプラザ利用実績			主な開催イベント内容
	催 事	その他 (うち移動販売)	計	
平成22年度	41回	4回(0)	45回	大門祭, 大門音楽祭, オープンカフェ実験事業ほか
平成23年度	37回	4回(0)	41回	大門合同学生祭, 大門音楽祭, 大門キッズスタジアム in GPほか
平成24年度	41回	5回(4)	46回	はこだてグルメサーカス, 大門合同学生祭, 大門音楽祭, ビアガーデン, フリーマーケットほか
平成25年度	39回	66回(60)	105回	はこだてグルメサーカス, 大門合同学生祭, 大門音楽祭, ビアガーデン, フリーマーケットほか
平成26年度	55回	16回(8)	71回	はこだてグルメサーカス, 函館いか祭り, 大門合同学生祭, 大門音楽祭, ビアガーデン, フリーマーケットほか
平成27年度	60回	21回(11)	81回	はこだてグルメサーカス, 函館いか祭り, 大門合同学生祭, 大門音楽祭, ビアガーデン, フリーマーケットほか
平成28年度	80回	22回(16)	102回	はこだてグルメサーカス, 函館いか祭り, 大門合同学生祭, 大門音楽祭, ビアガーデン, フリーマーケット, ニコニコ町会議, ほか
平成29年度	69回	14回(0)	83回	はこだてグルメサーカス, 函館いか祭り, 大門合同学生祭, 大門音楽祭, ビアガーデン, フリーマーケットほか
平成30年度	56回	3回(2)	64回	はこだておいしいフェスタ, 函館いか祭り, 大門合同学生祭, ビアガーデン, フリーマーケットほか
令和元年度	58回	2回(0)	60回	はこだて夜祭り, 函館いか祭り, 大門合同学生祭, ビアガーデン, フリーマーケットほか
令和2年度	42回	5回(0)	47回	函館いか祭り, 大門ジャズフェスティバル, ビアガーデン, フリーマーケットほか
令和3年度	49回	7回(0)	56回	函館いか祭り, はこだてルミポップ, 大門納涼ミニビアガーデン, フリーマーケットほか

### 3 (株)はこだてティーエムオーの概要

平成12年9月、函館市・函館商工会議所および商業者等が協力して、第三セクターのまちづくり会社である(株)はこだてティーエムオーを設立した。

- (1) 所在地 函館市若松町18番1号
- (2) 設立日 平成12年9月26日
- (3) 資本金 9,600万円(設立時 7,500万円)
- (4) 主な株主 函館市, 函館商工会議所, 函館都心商店街振興組合, 金融機関, 民間企業等
- (5) 役員構成 代表取締役1名, 常務取締役1名, 取締役4名, 監査役2名 (R4.3.31現在)
- (6) 主な目的 ・タウンマネジメントに関する企画, 調査・研究, 設計および管理業務  
・テナント(テナントミックス事業を図るための店舗)募集・店舗誘致業務 ほか
- (7) 主な事業

#### ア 大門横丁(ひかりの屋台)事業

①目的 市民・観光客のニーズを踏まえ, 周辺の既存施設との相乗効果が期待できる集客の核となる飲食施設を整備し, 中心市街地の魅力を高め, 集客力の回復を目的とする。

②施設概要 開業日:平成17年10月23日

所在地:函館市松風町7番

面積:敷地面積809㎡, 延床面積421㎡

店舗数:26店舗 Aタイプ:18店舗(11㎡(約3.3坪))

Bタイプ:8店舗(26㎡(約7.9坪))

集客数:約93,000人(令和3年度)

#### イ 函館だいまん大学事業

①内容 大門地区で活動する人をつくることを目的として, 年間6回程, 遊び方や楽しみ方など大門に関する講義を行う。

②開学日 平成24年5月

③登録者 132名(令和4年7月現在)

#### ウ その他

テナントミックス事業として, 当該会社の自社ビルのフロアを飲食店やオフィス, 会議室として賃貸しているほか, 駅前・大門地区において開催される各種イベントの開催に対する支援を行っている。

また, 引き続き平成29年度から令和3年度まで, はこだてグリーンプラザの指定管理者に指定されている。

### 4 中心市街地活性化に関する取組

#### (1) 中心市街地トータルデザイン作成業務(H24)

函館駅前・大門地区の魅力を向上させ, 活性化を推進していくためには, 地区の基盤である駅前通や, はこだてグリーンプラザ等について, 統一的な視点を持って整備していくことが必要であることから, 当該地区のトータルデザインコンセプト等のほか, 今後の整備に反映していくための資料を作成した。

#### ア 委託先 (株)ワークヴィジョンズ

#### (2) 大門キッズスタジアムの開設(H22~H28)

冬期間や天候の悪い日を含め, 年間を通じて, 子ども達が健全に安心して遊ぶことができる施設を整備・運営し, 次代を担う子ども達と子育て世代の親へ交流の場を提供するとともに, 市内の様々な情報を提供し, 多様な世代が交流できる場を設置することにより, 中心市街地の活性化を図ることを目的として開設していたが, はこだてキッズプラザの開設にあたり, 平成28年9月19日に事業を終了した。



ア 開設日 平成22年7月1日 ※平成28年9月19日事業終了

イ 開設場所 和光ビル5階（平成22年7月～平成25年5月）  
 中合棒二森屋アネックス6階（平成25年6月～平成28年9月）

ウ 委託先 （株）NAアーバンデベロップメント

エ 利用人数 平成22年度（7月～3月，9か月）： 47,834人  
 平成23年度（4月～3月，12か月）： 66,850人  
 平成24年度（4月～3月，12か月）： 66,662人  
 平成25年度（4月～3月，12か月）： 74,298人  
 平成26年度（4月～3月，12か月）： 68,706人  
 平成27年度（4月～3月，12か月）： 65,688人  
 平成28年度（4月～9月，6か月）： 29,417人  
 合計：419,455人

(3) 中心市街地出店促進事業の実施（H25～H29）

中心市街地内の指定地区において、空き店舗を活用した新規開業する事業者に対する補助制度を創設した。

ア 補助内容 （改装費）補助率：2分の1，補助限度額：100万円  
 （賃借料）補助率：2分の1，補助限度額：60万円（5万円×12か月）

イ 実績 平成25年度：（駅前・大門地区）5件，（本町・五稜郭地区）2件，（その他）1件  
 平成26年度：（駅前・大門地区）5件，（本町，五稜郭地区）3件，（その他）2件  
 平成27年度：（駅前・大門地区）2件，（本町，五稜郭地区）1件，（その他）2件  
 平成28年度：（駅前・大門地区）2件，（本町，五稜郭地区）5件  
 平成29年度：（本町・五稜郭地区）3件，（その他）1件  
 平成30年度：（本町・五稜郭地区）1件，（その他）1件 ※  
 令和元年度：（駅前・大門地区）2件，（本町，五稜郭地区）3件

※本事業は、中心市街地活性化基本計画に基づき実施してきたが、中心市街地の空き店舗は引き続き増加傾向にあることから、計画終了後も助成内容を縮小して継続。 ※令和2年3月31日事業終了

見直しの内容（H30～）

- ・ 改装費 補助率：2分の1から3分の1へ
- ・ 賃借料 廃止

(4) 電車停留場の整備（H25～H29）

利用者の利便性と街並み景観の向上，さらには安全・安心な都市景観の創出を図っていくため，デザイン性が高く，安全で利用しやすい電車停留場の整備を行う。

平成26年度：函館駅前整備完了  
 平成27年度：五稜郭公園前整備完了  
 平成28年度：中央病院前整備完了  
 平成29年度：松風町，千代台整備完了

(5) 観光等案内情報端末の整備（H25）

電車やバス等の公共交通機関の乗換案内および徒歩による観光地や商業施設，イベントへの案内情報を提供し，地理に不案内な観光客等が安心して歩き，回遊することができるように，情報端末を整備・運用していたが，令和2年度末をもって運用を廃止した。

ア 設置場所 JR函館駅，五稜郭タワー

イ 情報内容 乗換案内（交通機関：市電，函館バス，函館山ロープウェイ，観光遊覧船，函館空港連絡バス），  
観光施設，商業施設，宿泊施設，公共施設，病院，イベント情報，天気 等

ウ 端末機 マルチタッチパネル，46インチ

(6) 市道ときわ通の改築 (H25)

函館市芸術ホール駐車場の満車時に生ずる渋滞緩和のため，付加車線を整備した。

(7) 歩行者用案内サインの整備 (H25)

地理に不案内な観光客等が，安心して回遊できるように，安全かつ円滑な移動を確保する案内サインを整備した。

ア 設置基数 19基

イ 表記言語 英語，ハングル，中国語（繁体字，簡体字），ロシア語

(8) 市道ときわ通歩道の整備 (H26)

観光地に相応しい魅力をもち，かつ安全で快適な歩行空間として，放射2-2号線から五稜郭公園までの歩道を整備した。

(9) 子育て世代活動支援プラザの整備 (H26～H28)

函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業において建設された「キラリス函館」4階に，親と子のコミュニケーションや育児に関する情報交換が行えるスペースを整備した。

ア 施設名称 はこだてキッズプラザ

イ 主な設備

大型複合遊具（ボールプール，ネット遊具等），乳幼児スペース（おむつ替え・授乳室），託児室，相談室  
など

ウ 開設 平成28年10月15日

エ 指定管理者 はこだてみらいプロジェクト運営グループ

オ 入館者数 平成28年度： 62,374人（約6ヶ月間）

平成29年度：107,021人 令和 元年度：107,169人

平成30年度：115,728人 令和 2年度： 45,804人

令和 3年度： 65,861人

(10) はこだておもしろ館の整備 (H26～H29)

函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業において建設された「キラリス函館」3階に，市民や観光客がさまざまな情報を先端技術を活用したコンテンツで体験し，交流できるスペースを整備した。

ア 施設名称 はこだてみらい館

イ 主な設備

Media WALL（LEDパネル 2.4m×14.4m），360スタジオ，シアター など

ウ 開設 平成28年10月15日

エ 指定管理者 はこだてみらいプロジェクト運営グループ

オ 入館者数 平成28年度： 19,687人（約6ヶ月間）

平成29年度： 42,990人 令和 元年度： 66,075人

平成30年度： 63,134人 令和 2年度： 32,651人

令和 3年度： 47,529人

(11) 市民交流プラザの整備 (H27~H29)

函館本町地区優良建築物等整備事業において建設された「シエスタハコダテ」4階に、市民が相互に交流するとともに、若者の自主性や社会性の向上を育むスペースを整備した。

- ア 施設名称 函館コミュニティプラザ (Gスクエア)  
イ 主な設備 多目的ホール, イベントスペース, キッチンスペース, 多目的室 (防音室) など  
ウ 開設 平成29年4月22日  
エ 指定管理者 Gスクエア  
オ 入館者数 平成29年度: 276, 446人 令和元年度: 190, 603人  
平成30年度: 187, 811人 令和2年度: 109, 421人  
令和3年度: 140, 146人

(12) 観光等案内情報アプリケーションの開発 (H27)

平成25年度に観光等案内情報端末事業において整備し稼働しているシステムを活用し, アンドロイド端末およびiOS端末において, 目的地までの公共交通機関を利用した乗換案内情報等を提供するため, インフォメーションアプリ「函館NAVI」を開発し, 配信を開始した。平成28年度からは, さらなる利便性の向上を図るため, 函館市公式観光情報サイト「はこぶら」と連携して施設情報, イベント情報などを充実させていたが, 令和2年度末をもって運用を廃止した。

- ア 提供する主な情報
- ・現在地から目的地までのルート検索
  - ・公共交通機関の乗換案内
  - ・観光地や公共施設などの施設情報
  - ・函館および近郊のイベント情報
- イ 言語表記 (5言語対応)
- ・日本語, 英語, 中国語 (繁体字, 簡体字), 韓国語
- ウ アプリの普及方法
- ・利用者が検索し, 直接ダウンロード
  - ・QRコードを読み取り, ダウンロード (パンフレット, 函館市ホームページ上などでQRコード配信)

(13) 公衆無線LAN環境の整備 (H27~H28)

今後も増大が見込まれる外国人観光客の利便性, 満足度の向上を図るため, 函館市内の公衆無線LAN環境を整備した。

(サービス名: HAKODATE FREE Wi-Fi)

- ア 実績 平成27年度 元町・金森赤レンガ周辺エリア  
平成28年度 JR函館駅前・大門, 五稜郭, 湯の川の主要観光エリアのほか, 港町ふ頭, 西ふ頭, 元町公園, 市民の森, 路面電車の車両内

(14) 中心市街地事務所立地促進事業の実施 (H27~) ※平成30年度より新規申請の受付停止

市外事業者の中心市街地における事務所の新設を促進することにより, 中心市街地の活性化を図るとともに, 大学卒業者等の雇用の創出を図ることを目的に創設した。平成29年度からは, 雇用要件の緩和等制度改正を行った。

- ア 補助内容 (家賃補助金) 補助率: 10分の10 (~12ヶ月) 補助限度額: 20万円 (月額)  
2分の1 (13ヶ月~3年) 補助限度額: 10万円 (月額)  
3年間で最大480万円

(駐車場賃借料補助金) 補助限度額：(月額) 1万5千円/台, (年額) 50万円/社

3年間で最大150万円

(雇用奨励金) 補助限度額：1社あたり最大150万円

イ 実績 平成28年度：(家賃補助金交付決定) 1件

平成30年度：(家賃補助金交付決定) 1件

(15) グリーンプラザの整備 (H28～)

はこだてグリーンプラザを, 市民のみならず観光客も訪れ, そこで過ごしたくなる魅力的な空間として整備するにあたり, 平成29年度に整備基本計画を策定するとともに, 基本設計を行った。

ア 委託先 整備基本計画：(株)アトリエアク

基本設計：(株)ドーコン

5 主な民間事業者の取り組み

(1) 函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業

函館駅前・大門地区に立地する和光ビルを含む街区の再開発を行い, 平成29年3月「キラリス函館」が竣工した。

ア 施行者 (株)NAアーバンデベロップメント 代表取締役 布村隆二

イ 再開発ビルの構成

・5～16階：分譲マンション(84戸)

・3～4階：公共施設(はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ)

(平成28年10月15日オープン)

・B1～2階：商業施設(平成28年7月29日一部先行オープン)

(2) (株)まちづくり五稜郭の概要

五稜郭エリアを函館市民にとって, 将来にわたり魅力ある地域として発展させていくことを目的に本町・五稜郭・梁川地区の有志により, まちづくり会社が設立された。

ア 設立 平成24年7月24日

イ 資本金 18,500千円(令和2年3月末現在)

ウ 役員 代表取締役社長：久保一夫

取締役：青田 基, 中野 恒, 齋藤 志津香

監査役：大井 清二

エ 事務所 五稜郭ガーデン内(本町9-17)

オ 主な事業

複合施設「五稜郭ガーデン」事業

本町地区に, 地域コミュニティ施設と一体となった新たな飲食モールである複合施設「五稜郭ガーデン」が平成27年10月23日オープンした。

令和2年5月18日事業停止。6月25日破産手続き開始決定。

(3) チャレンジオフィスの実施

本町・五稜郭地区において, 安価で事務所スペースを提供し, 起業を支援する事業が展開されている。

ア 開設 平成24年4月

イ 場所 本町五稜郭ビル5階(本町23-4)

ウ 事業主体 函館街づくり開発(株)

エ 室数 10室(8.9㎡～16.15㎡)

オ 家 賃 月額3万円～10万円

カ 主な設備 コピー機, Wi-Fiスポット, 冷暖房完備, デスク, イス, ネットワーク環境 (有線LAN: 光回線)

#### (4) S P C函館本町開発(株)の設立

本町・五稜郭地区において懸案となっていた旧グルメシティ五稜郭店の建て替えを行うことを目的とした特定目的会社が設立され, 市も当該会社へ出資した。

ア 設 立 平成25年1月24日

イ 資 本 金 123,000千円 (市出資: 30,000千円)

ウ 役 員 代表取締役: 布村隆二, 取締役: 岡本克己, 岸寛樹, 金浜武美, 監査役: 犬飼敏

エ 事 務 所 キラリス函館内 (若松町20番1号)

#### (5) 函館本町地区優良建築物等整備事業

函館本町地区に立地する旧グルメシティ五稜郭店を含む街区の再開発を行い, 平成29年3月「シエスタハコダテ」が竣工した。

ア 施行者 S P C函館本町開発(株) 代表取締役 布村隆二

イ 再開発ビルの構成

・5～19階: 分譲マンション (73戸)

・4階 : 公共施設 (函館コミュニティプラザ)

・B1～3階: 商業施設

(平成29年4月22日 B1～4階まで同時オープン)

#### (6) Hakodate City Wi-Fiの概要

北海道新幹線新函館開業を見据え, 増加が見込まれる観光客への受け入れ体制の向上を図るため, 官民が協力し, 市内観光施設や公共交通機関におけるWi-Fi環境の整備を行った。

ア 実 施 日 平成24年3月23日～平成29年3月31日

※ 北海道新幹線新函館開業対策推進機構の解散とともに終了。一部のWi-FiスポットについてはHAKODATE FREE Wi-FiのWi-Fiスポットに変更または民間事業者独自のWi-Fiスポットとして運用。

イ 実施主体 函館市, 北海道新幹線函館開業対策推進機構, (株)ワイヤ・アンド・ワイヤレス

ウ 導入場所 ※中心市街地関連 (下線を引いた施設等はHAKODATE FREE Wi-FiのWi-Fiスポットに変更)  
(観光施設)

五稜郭タワーアトリウム, 函館駅観光案内所, 函館駅商業協同組合 (駅二組合),

渡島蔬菜農業協同組合 (朝市ひろば), テーオーデパート, アイカフェ函館五稜郭店

(公共交通機関)

函館市電車内, 空港連絡バス, 函館駅前バス案内待合所

(その他公共施設等)

函館市役所市民ホール, 函館商工会議所, 函館青年センター, 中島廉売ふれあいセンター

#### (7) がごめ昆布 ねばねば本舗の概要

平成23年度, 市委託事業 (ふるさと雇用再生特別対策推進事業) として, 中心市街地に移転開業した「がごめ昆布アンテナショップ」は, 平成24年度から, 民間事業者により独立運営しており, 平成26年4月26日には, JR函館駅構内で3月まで営業していた道南産品アンテナショップ「フードカン」が同店舗内に移転した。

平成28年7月29日には, 「まるごと北海道ストア えぞりす by ねばねば本舗」として, キラリス函館1階に移転した。

ア 移転開設 平成28年7月29日  
イ 場 所 若松町20-1 キラリス函館1階  
ウ 運 営 函館がごめ連合

(8) 渡島ドーム整備事業（「函館朝市ひろば」の整備）

函館朝市内に立地する渡島ドームを地域交流施設と一体となった市場施設への建て替えを行った。

ア 開 設 平成26年4月12日  
イ 場 所 若松町9-22  
ウ 事業主体 株式会社函館朝市まちづくりの会  
エ 施設内容 産直市（生産者直売市場）、フードコート、物産街、イベントホール

(9) ふれあいセンター整備事業（「中島れんばいふれあいセンター」の整備）

地域住民をはじめ、市民や観光客、若年層や高齢者、障がい者が交流でき、イベント開催も可能な地域コミュニティ施設の整備を行った。

ア 開 設 平成26年5月7日  
イ 場 所 中島町25-18  
ウ 事業主体 NPO法人日本障害者・高齢者生活支援機構  
エ 施設内容 コミュニティスペース、コワーキングスペース

## V 食産業の振興

本市では、市内における「食」の魅力度を高め交流人口の拡大を図り、もって地域経済を活性化させるため「食の産業化」を推進している。

この取り組みを拡充するため、食産業振興課では、食に関するイベントの実施やポータルサイトの運営管理、市内食品加工企業の支援、さらには市内食品関連企業の輸出支援や物産展の開催などを通じて、「海外展開」と「魅力向上」を軸とした料理人や加工業者など食関連事業者への支援を行い、函館の「食」の価値向上に努め、函館を訪れる人を増やし、地域製品のさらなる販路拡大をめざしている。

### 1 食の産業化の推進【食産業】

本市の食の魅力により、国内外から多くの人を訪れるグルメのまち、食のまちを目指していく。グルメのまち、食のまちとして発展し、「地産地消の促進」「交流人口の拡大」「新たな雇用創出」につなげていく。

#### (1) はこだてFOODフェスタ

##### ア 目的

函館市の強みである「食」をテーマにしたイベントを冬季に実施し、道南食材や道南加工品の周知・普及を通じて、あらためて「本市の食」に対する市民意識の醸成を図る。

また、生産者や料理人等食関連事業者の連携を深めることで、食を担う料理人等の技術力向上、および、地域の食資源の域内消費を促進し、本市の食の魅力度向上に繋げ、交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化を目指す。

##### イ 平成29年度事業実績

開催日 平成30年2月24日(土)、25日(日)

来場者数 21,500人(2日間)

##### ウ 平成30年度事業実績

開催日 平成31年2月23日(土)、24日(日)

来場者数 25,000人(2日間)

##### エ 令和元年度事業実績

開催日 令和2年2月22日(土)、23日(日)

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

##### オ 令和2年度事業実績

開催日 令和3年2月15日(月)～28日(金)14日間(Part1.)

令和3年3月15日(月)～28日(金)14日間(Part2.)

※函館・道南の各店舗での実施(デリバリー、特別メニュー提供など)

令和3年3月20(土)、21日(日)(miniイベント)

##### カ 令和3年度事業実績

開催日 令和4年2月26日(土)、27日(日)

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

キ 令和4年度事業予定

開催日 令和5年2月25日(土), 26日(日)

※令和4年9月下旬に開催可否判断

(2) はこだて食ポータルサイト

函館の食の魅力を充実させるためには、地域の食に関する様々な情報を把握し、その情報を一つにまとめ、観光客や市民に効果的な情報発信をする必要がある。

「食の街・函館」の魅力を向上させ、今以上に「食」を理由に函館を訪れる方を増やすために、広く市民や観光客にPRすることを目的とする。

【概要】

サイト名: 「おいしい函館」(平成29年11月開設)

- ・食の街・函館の魅力
- ・食材, 料理, 料理人
- ・食に関するイベントや研修等のニュース等

Facebookと連動し, 月6回随時更新

(3) 「食の担い手」育成

本市の食の魅力を向上させるとともに、「食のまち」, 「グルメのまち」としての認知度を高め, 交流人口を拡大させるために, 地元の料理人等の知見を深め, 技術力の向上をさせることに加え, 将来の担い手を確保することを目的とする。

- ・収穫&料理教室体験ツアーの開催(子ども向け)
- ・地域食材勉強会の開催(料理人, 飲食店関係者向け)

ア 平成30年度事業実績

- ・バスツアー(7月開催 株式会社かまだ商店・南茅部漁業協同組合直販加工センター)
- ・子ども向け研修会(イカコン)の開催 1回(8月 コープさっぽろ, 函館市共催)
- ・子ども向け研修会(ぼんてけてけ)の開催 4回(12月~3月 コープさっぽろ, 函館市共催)
- ・子ども向け研修会(焼きピロキッチン)の開催 2回(11月, 1月 北海道ガス, 函館市共催)
- ・勉強会(12月開催 題材: サメ)

イ 令和元年度事業実績

- ・子ども向け研修会(焼きピロキッチン)の開催 4回(7月×2, 1月×2 北海道ガス, 函館市共催)
- ・子ども向け研修会(収穫&料理教室バスツアー)の開催 3回(8月×3 コープさっぽろ, 野口観光, 函館市共催)
- ・勉強会(9月開催 題材: 鱈)

ウ 令和2年度事業実績

- ・小学生向け料理教室(リトルシェフ養成講座)の開催 2回(11月, 12月 函館調理製菓専門学校, 函館市共催)
- ・小学生向け料理教室(センチール・ラ・セゾンキッチン)の開催 1回(10月 センティール・ラ・セゾン, 函館市共催)



エ 令和3年度事業実績

※令和3年度～事業を委託。（受託事業者：（株）シンプルウエイ）

- ・小学生向け料理教室（リトルシェフ養成講座）の開催 1回  
（11月 函館調理製菓専門学校，函館市共催）
- ・小学生向け料理人のお仕事体験の開催 1回  
（1月 メゾンフジヤハコダテ）
- ・料理人向け（函館料理アカデミー）の開催 1回  
（8月 銭屋）
- ・料理人向け（函館料理アカデミー）の開催 1回  
（2月 竹葉新葉亭）

オ 令和4年度事業予定

※令和3年度～事業を委託。（受託事業者：（株）北海道博報堂）

- ・子ども向け料理教室の開催 3回
- ・料理人，経営者向け講座の開催 3回

（4）食の魅力発信事業

ご当地グルメを紹介するリーフレットの作成や，消費拡大を目的としたイベント開催などの支援を通じて，地域資源を活用した新たな「函館の食」のPRを目的とする。

ア 平成30年度事業実績

- ・リーフレットの作成（はこだて焼きピロシキ3万部，はこだてチャウダー5千部）
- ・販促物の作成（はこだて焼きピロシキのポリ袋3万袋）
- ・イベントの開催支援（ピロシキ博 平成31年3月10日（日））

イ 令和元年度事業実績

- ・イベントの開催支援（ピロシキ博 令和2年3月21日（土），22日（日））  
※新型コロナウイルス感染症拡大により中止
- ・子育て世帯向けコミュニティマガジン「まま・ここっと」はこだて焼きピロシキ広告掲載（3.4万部）

ウ 令和2年度事業実績

- ・イベント開催支援（ピロシキ博 令和3年3月27日（土））

エ 令和3年度事業実績

- ・食の魅力発信事業（まるまるひがしにほん 令和3年12月9日（木）～12日（日））
- ・イベント開催支援（ピロシキ博 令和4年3月19日（土），20日（日））

オ 令和4年度事業予定

- ・食の魅力発信事業（伊丹空港，空楽フェスタ 令和4年6月4日（土））
- ・食の魅力発信事業（安湯みなとまつり 令和4年7月22日（金）～24日（日））
- ・イベント開催支援（メガドン夏祭り 令和4年7月16日（土）～18日（月））
- ・イベント開催支援（ピロシキ博 令和5年3月18日（土），19日（日））

## 2 地場産品の販路拡大（国内）【物産・食産業】

### (1) 物産と観光展の開催

全国各地で開催される北海道物産展に参加しているほか、青森市と共同で青函物産展の開催にも取り組んでいる。今後においても函館物産協会と連携しながら、函館の特産品の販路拡大を図る。

〈函館物産協会取扱高〉

区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
北海道の物産と観光展	27	856,790	24	442,514	28	773,605
百貨店等自主開催物産展	198	845,482	105	486,846	165	642,179
青函の物産と観光展	1	8,105	2	6,471	1	5,543
その他	1	21,100	0	0	2	18,254
計	227	1,731,477	131	935,831	196	1,439,581

※函館物産協会は昭和32年設立

### (2) 函館市アンテナショップ事業（平成23年度～）

株式会社ローソンとの連携により、東京都内のローソン店舗内に「函館市アンテナショップ」を設置し、特産品の販売と観光情報の発信を行っている。

#### ア 目的

- ・地場産品のPR、新商品のテスト販売、首都圏における消費者ニーズの把握
- ・新たな販路拡大に対する地元企業の意欲を喚起
- ・首都圏における継続的な地域ブランドのPR

#### イ 開設日・場所

##### ・1号店

ローソン京橋駅前店 （住所：東京都中央区京橋2丁目4番12 京橋第一生命ビル1F）

平成23年12月22日開設

※ローソン京橋駅前店が入居するビルの賃貸借契約の満了に伴い令和2年7月30日閉店

##### ・2号店

ローソン世田谷奥沢五丁目店 （住所：東京都世田谷区奥沢5丁目41番11）

平成30年 9月26日開設

#### ウ 運営

(一社)函館物産協会

#### エ 主な事業内容

- ・ローソンおよび店舗オーナーが同席する年4回の検証会への参加
- ・店舗売り場レイアウトの調整・変更
- ・各種フェアや試食イベント等の実施
- ・他自治体のアンテナショップと連携したスタンプラリーイベント等の実施
- ・アンテナショップ店舗における新商品のテスト販売の実施
- ・公式Webページおよびtwitter等SNSツールの管理運営

(3) 食品スーパー等との連携

ア イオン株式会社との連携

函館市とイオン(株)は平成26年10月6日に「協働のまちづくりに関する協定」を締結し、「はこだてW AON」利用金額の一部の寄附、店舗での「北海道・函館フェア」の実施などの協働事業を実施することとした。これに基づき、平成26年度以降、イオングループの食品スーパーにおいてフェアを実施している。

【事業実績】

・令和元年度事業実績

ダイエー

令和元年 8月3日～6日(4日間) 118店舗で実施

令和元年 11月7日～10日(4日間) 118店舗で実施

ピーコックストア(イオンマーケット)

令和元年 7月5日～7日(3日間) 35店舗で実施

・令和2年度実績

ダイエー

令和2年 11月6日～8日(3日間) 120店舗で実施

ピーコックストア

令和2年 7月3日～5日(3日間) 35店舗で実施

イオン北海道

令和2年 7月16日～21日(6日間) 新さっぽろ店で実施

令和2年 9月3日～9日(7日間) 上磯店で実施

令和2年 9月23日～29日(7日間) 苗穂店で実施

令和3年 2月19日～21日(3日間) 100店舗で実施

イオン北関東

令和2年 9月30日～4日(5日間) レイクタウンmori店で実施

・令和3年度実績

ダイエー

令和3年 8月7日～9日(3日間) 160店舗で実施

令和3年 11月4日～7日(4日間) 65店舗で実施

イオン北海道

令和3年 4月1日～6日(6日間) 上磯店で実施

令和3年 6月10日～15日(6日間) 上磯店で実施

イオン北関東

令和3年 7月15日～20日(6日間) イオン레이크タウンmori店で実施

令和3年 9月28日～10月3日(6日間) イオン레이크タウンmori店で実施

・令和4年度予定

ダイエー

令和4年 8月4日～7日(4日間) 約65店舗で実施

令和4年 11月 未定

イオン北関東

令和4年 5月17日～22日(6日間) イオン레이크タウンmori店で実施

イ その他のスーパーマーケット等との連携

イオン以外の食品スーパー等とも連携し、全国で函館のフェアを展開している。

【事業実績】

令和元年度 事業実績：延べ7回、約36店舗で実施

令和2年度 事業実績：延べ4回 約69店舗で実施

令和3年度 事業実績：延べ2回 約4店舗で実施

主な連携企業

- ・オータニ(栃木県) 函館フェア実施 平成28年度～令和元年度
- ・マイヤ(岩手県) 函館フェア実施 平成29年度～令和2年度

- ・マエダ（青森県） 函館フェア実施 平成30年度
- ・コープさっぽろ 地元応援フェア開催 令和2年度～  
トドック実施 令和2年度
- ・スーパー玉出（大阪府） 北海道応援函館フェア実施 令和2年度

#### ウ 百貨店との連携

新型コロナウイルス感染症の拡大により大きな損害を受けている市内食品関連事業者の支援を目的として、百貨店と連携し、オンライン物産展や地元応援フェアを実施している。

##### 【事業実績】

##### ・令和2年度実績

山形屋（鹿児島県）＜オンライン物産展＞  
令和2年8月12日～25日（14日間）  
令和3年2月15日～28日（14日間）

宮崎山形屋（宮崎県）＜オンライン物産展＞  
令和2年8月12日～25日（14日間）  
令和3年2月15日～28日（14日間）

丸井今井（函館）＜地元応援フェア＞  
令和2年 8月20日～24日（5日間）  
令和2年12月 3日～ 9日（7日間）

#### エ その他企業、団体との連携

ラ・ロシェル（東京都 レストラン）  
函館産食材を用いたメニューによるフェア実施 令和元年度

札幌ビューホテル（札幌市 ホテル）  
レストランにおいて函館産食材を用いたフェア実施 令和元年度

まるまるひがしにほん 東日本連携センター（埼玉県）  
物販コーナーにおいて函館フェア実施 令和元年度～

H I D O（札幌市）  
ウェブによる函館物産展実施 令和2年度

北海道電通，NCV（函館市）  
テレビ通販によるフェア実施 令和2年度

ふるさと交流ショップ台東（東京都）  
函館物産展実施 令和3年度～

道の駅くにみ（福島県）  
小樽・函館フェア実施 令和3年度

#### （4）函館スイーツ販路拡大推進事業（平成26年度～）

「函館スイーツ」を全国に発信し、認知度向上、消費拡大を図り、地域経済の発展に寄与することを目的に菓子団体・企業・経済団体・行政の連携による「函館スイーツ推進協議会」を平成26年度に設立し、各種事業を実施している。

#### ア 平成30年度事業実績

- ・函館スイーツPR冊子「KA・N0・KA」の制作（B5版 1万部）
- ・函館スイーツ電車の運行（JTBを販売窓口とし、旅行商品の造成）
- ・はこだて未来大学との連携によるスイーツアプリケーション開発
- ・函館スイーツ情報発信事業（既存のSNS等に加え、公式インスタグラム開設）

#### イ 令和元年度事業実績

- ・函館スイーツPR冊子「KA・NO・KA」の制作（B5版 1万部）
- ・函館スイーツを活用した着地商品プロジェクトの実施
  - (1) 函館スイーツ電車
  - (2) 函館スイーツ食べ歩きパスポート
- ・はこだて未来大学との連携によるスイーツアプリケーション開発
- ・函館スイーツ情報発信事業（公式サイトやフェイスブックによる情報発信）
- ・函館スイーツクーポン事業（JR北海道，JR東日本びゅう，日本旅行，JTB等）
- ・はこだてグルメサーカス出店

#### ウ 令和2年度事業実績

- ・函館スイーツPR冊子「KA・NO・KA」の制作（B5版 5千部）
- ・函館スイーツを活用した着地商品プロジェクトの実施
  - (1) 函館スイーツ電車
  - (2) 函館縄文スイーツ
- ・はこだて未来大学との連携によるスイーツアプリケーション開発
- ・函館スイーツ情報発信事業（公式サイトやフェイスブックによる情報発信）

#### エ 令和3年度事業実績

- ・函館スイーツPR冊子「KA・NO・KA」の制作（B5版 1千部）
- ・函館スイーツを活用した縄文文化PR・着地商品造成プロジェクトの実施
  - (1) 函館縄文アイスクリーム新商品開発
  - (2) 函館縄文スイーツスタンプラリー
  - (3) 函館縄文スイーツフェスタ in 函館葛屋書店
  - (4) 函館縄文ツアー「縄文めぐり旅」の実施
- ・はこだて未来大学との連携によるスイーツアプリケーション開発
- ・函館スイーツ情報発信事業（公式サイトやフェイスブックによる情報発信）

#### オ 令和4年度事業予定

- ・函館スイーツコンテストの実施
- ・はこだてフードフェスタにおけるスイーツカフェの実施
- ・はこだて未来大学との連携によるスイーツアプリケーション開発
- ・函館スイーツ情報発信事業（公式サイトやフェイスブックによる情報発信）

#### (5) 販売力・発信力向上促進事業

市内食品関連事業者の販売力と発信力のスキルアップを図り，販路拡大を支援することを目的に，実施している。

#### ア 令和3年度事業実績

- ・『バイヤー目線個別にアドバイス「久世福商店塾」～選ばれる商談術～』の実施  
令和3年11月26日 参加企業9社

#### イ 令和4年度事業予定

- (1) 販売力スキルアップ模擬商談会
- (2) EC活用セミナー「スマホでOK！売上を上げる写真の撮り方」  
令和4年6月24日 参加企業14社

### 3 地場産品の販路拡大（海外）【貿易】

今後、人口減少とともに国内市場が縮小するなか、内需のみならず外需を獲得する必要性が高まり、海外市場に目を向けた対応が函館市の食関連産業に強く求められている。

地域の基幹産業である食品関連企業の海外への販路拡大、特に令和元年度に実施した「食の産業化推進事業調査」により有望とされた海外市場（北米地域、ASEAN）への販路開拓を促進するため、商談会の開催や海外の小売店・商社への商品提案など、各種支援施策を実施する。

また、地域おこし協力隊員による輸出ビジネス支援や有望市場のニーズに沿った商品開発支援や各種補助制度により、市内事業者の輸出拡大を促進する。

#### (1) 食品輸出に係る商談会の開催および支援

関係機関と連携し、海外から食品バイヤーや料理人等を招へいし、市内食品関連企業との商談会を開催する。

また、輸出に取り組むスーパーマーケット等企業からの依頼に応じ、市内食品関連企業との商談会開催等を支援する。

##### 令和3年度実績

市の主催・共催する事業 2回、のべ10社参加（JETRO連携事業）

その他 13回、のべ48社参加（HIDO連携事業ほか）

##### 令和4年度予定

市の主催・共催する事業 4回開催予定（市主催事業・JETRO連携事業）

その他 未定

#### (2) 函館市地域おこし協力隊による輸出ビジネス支援（令和2年度～）

市内の食関連事業者の輸出を強力に後押しし、地域における食関連産業の国際競争力を高め、ひいては一層の輸出拡大へとつなげるため、「輸出ビジネスの支援に従事する函館市地域おこし協力隊」を委嘱し、サポートデスク対応、資料の翻訳など市の輸出関連事業に係る補助業務、SNSを活用した輸出ビジネス関連情報の収集・発信業務を実施している。

#### (3) 海外向け商品の開発支援（令和元年度～）

海外市場における商品競争力の向上を図るため、「食の産業化推進事業調査」において有望市場とされた地域の現地消費者および現地バイヤーならびに来函するインバウンドをターゲットとし、マーケットインの視点を取り入れた市内企業の商品開発を支援する。

令和3年度からは「有望市場向け商品開発事業」として、シンガポール国立大学(NUS)食品科学部と連携し、シンガポールおよびマレーシアの消費者の目線を取り入れた新たな商品開発(改良)をサポートし、最終的に現地バイヤー向けの試食会を開催し支援を行っている。

令和3年度実績 2社参加

令和4年度予定 2社参加予定

#### (4) 輸出支援に係る補助制度

##### ア 函館市海外展示商談会出展補助金（平成28年度～）

ジェトロ等が主催または後援する海外展示商談会（全業種対象）に参加するための経費について、出展料、サンプル送料などその一部を補助する。

##### 補助対象者

自社で製造または販売する商品の販路拡大を目的として函館市内に事務所または事業所を有する中小企業者等

##### 補助対象経費

海外展示商談会に出展するために、直接必要となる出展料、備品使用料等。

なお、一定の条件を満たした者については航空賃および宿泊費も対象とする。

補助金額

補助対象経費の2分の1以内（上限50万円。食品関係の展示商談会は上限30万円。）

補助実績

平成30年度 4社、令和元年度 3社、令和2年度 0社、令和3年度 0社

イ 輸出向けHACCP等適合化支援補助金（令和3年度～）

近年、食品の輸出に際し相手国が食品衛生等の観点から設定した衛生基準への適合証明が求められる事例が増加しているが、現在、市内の事業者の多くが不適合な状態にあり輸出拡大に向けた障壁となっていることから、市内食品関連事業者の輸出力強化のため、輸出向けHACCP等各種衛生基準への適合化に取り組むためのコンサルタント利用料を支援する。

補助対象者

自社で製造または販売する商品の販路拡大を目的として函館市内に事務所または事業所を有する中小企業者等であって、輸出向けHACCP等への適合化のためにコンサルタントを利用する者

補助対象経費

コンサルタント利用料、コンサルタントに係る旅費、分析費用

補助金額

補助対象経費の2分の1以内（最大50万円）

補助実績

令和3年度 1社

（5）関係機関との連携事業

ア （独）日本貿易振興機構（ジェトロ 平成15年設立）

本市には平成25年4月から相談窓口が開設され、相談員1名が配置されている。ジェトロ北海道と連携し、海外への輸出に係る事業の共催、情報提供および各種窓口相談への対応など、輸出支援を実施している。

イ （一社）北海道国際流通機構（HIDO 平成29年設立）

地域企業の海外への販路拡大を支援するため、平成25年度に北海道開発局が中心となり「北海道国際輸送プラットフォーム推進協議会」を設立したが、平成28年度末で協議会の事業が終了したことに伴い、平成29年4月3日にその取組内容を引き継ぎ設立された。

本市は自治体会員となっていることから、HIDOと連携し海外物産展への参加およびテストマーケティング事業等、各種輸出支援事業を実施している。

ウ 札幌食と観光国際実行委員会（事務局：札幌市 平成27年度から参加）

本市はFOOD HOKKAIDOを始めとする札幌食と観光国際実行委員会が関わる輸出関連事業について、市内食品関連企業の参加機会を確保するため自治体会員となっている。

(参考) 函館港の貿易概況

① 函館港の貿易概況

(単位：百万円)

区 分	令和元年	前年比	令和2年	前年比	令和3年 <sup>※2</sup>	前年比
輸 出	23,384	98.3	21,096	90.2%	17,814	84.4%
輸 入	29,920	141.1	19,076	63.8%	16,510	86.6%
合 計	53,304	118.4	40,172	75.4%	34,324	85.4%

② 輸出額

(単位：千円)

区 分 <sup>※1</sup>	令和元年	前年比	令和2年	前年比	令和3年 <sup>※2</sup>	前年比
魚介類及び同調整品	1,196,820	47.6	1,195,487	99.9%	127,000	10.6%
うち甲殻類及び軟体動物	<u>374,765</u>	<u>21.8</u>	<u>757,317</u>	<u>202.1%</u>	<u>8,000</u>	<u>1.0%</u>
鉄鋼くず	2,103,846	77.3	1,966,464	93.5%	3,019,000	153.5%
非金属鉱物製品	2,993,629	142.1	2,336,473	78.0%	2,324,000	99.5%
一般機械	344,915	84.8	798,115	231.4%	24,000	3.0%
船 舶 類	15,668,323	107.8	13,689,161	87.4%	11,549,000	84.4%
そ の 他	996,189	69.4	1,110,568	111.5%	771,000	69.4%
合 計	23,383,667	98.3	21,096,268	90.2%	17,814,000	84.4%

③ 輸入額

(単位：千円)

区 分 <sup>※1</sup>	令和元年	前年比	令和2年	前年比	令和3年 <sup>※2</sup>	前年比
魚介類及び同調整品	13,449,829	164.2	10,863,736	80.8%	7,689,000	70.8%
うち「いか」	<u>7,216,253</u>	<u>381.2</u>	<u>3,409,950</u>	<u>47.3%</u>	<u>1,662,000</u>	<u>48.7%</u>
小麦及びメスリン	1,184,803	87.8	1,234,633	104.2%	1,519,000	123.0%
木 材	138,621	76.7	107,953	77.9%	11,000	9.8%
石 炭	5,370,582	120.1	4,075,553	75.9%	6,028,000	147.9%
そ の 他	9,776,159	139.4	2,793,949	28.6%	1,263,000	45.2%
合 計	29,919,994	141.1	19,075,824	63.8%	16,510,000	86.6%

資料：函館税関「外国貿易年表」，函館港外国貿易概況

※1 輸出額・輸入額内訳において、主な概況品目を抜粋し掲載。

※2 令和3年実績は、函館港外国貿易概況の速報値を引用しています。



## 4 水産加工業者への総合支援【食品加工】

### (1) イカ不漁に対する総合支援

近年、気候および海水温、海流の変化などの自然現象や、中国や北朝鮮などの漁船による違法操業に伴うイカ不漁が全国的に続いている。本市の基幹産業である水産加工業は、その多くがイカを主原料としていることから、市内の水産加工業者は経営に深刻な影響を受けており、実際に倒産する企業が現れ始めるなど、今後の操業維持が困難になるほどの危機的な状況となっていることから、市では必要な支援策を講じている。

#### ア 輸入イカ共同購入支援事業

経営に深刻な影響を受けている市内の水産加工業者への緊急支援策第一弾として、平成28年12月からは商工会議所と連携し、イカ加工業者に対する低利融資と利子補給を実施したところであるが、翌29年度もスルメイカ漁が好転しないことから、市の緊急支援策第二弾として、金融支援の期間延長（平成29年12月まで→平成31年3月まで）や、同年9月補正により、業界団体が行う輸入イカの共同調達に対する支援として補助金1億円を交付した。

#### イ 魚種転換支援事業補助金

将来のイカ不漁に備えた経営のリスク分散を図る「魚種転換※」の取組に対する支援として当該事業を実施

※ イカ加工業者が、平成28年4月1日以降自社において主たる原材料としての利用実績がない

- ・イカ以外の水産物、農畜産物
- ・イカの種類（例：トビイカ、ドスイカ等）や部位（例：軟骨、クチバシ等）を新たに主たる原材料として用いること

##### ①対象者

函館市内に本社または工場を有するイカ加工業者

（過去3年以内にイカを主たる原材料とした商品の製造・流通実績がある中小企業等）

##### ②補助対象事業

- ・新商品開発支援事業（補助率：1/2，上限額：100万円） ※～R元年度まで  
新商品試作等に要する原材料費，物品購入費，成分分析費，包装資材費，マーケティング調査経費，公的試験研究機関等と共同研究開発費など
- ・製造機械の導入および改修支援事業（補助率：1/2，上限額500万円）  
1件10万円（税抜）以上の機械等導入経費，改造・改修経費 など  
※～R2年度まで上限額1,000万円

##### ③申請状況等

申請等の件数

補助対象事業	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (7月現在)
・新商品開発支援事業	申請0件			
・製造機械の導入および改修支援事業	交付8件	交付10件	交付3件	申請見込3件

## (2) 水産加工残渣処理対策

水産加工場等から出るイカ加工残滓（以下、「イカゴロ」という。）は、日本化学飼料㈱のイカゴロ処理部門からの撤退表明を受け、「道南いか残滓安定処理対策協議会（平成15年設立）」において、イカゴロ処理についての提案を公募し、応募された提案から㈱オカドラ（後に㈱ケイエム飼料函館を設立）の提案を採用し、イカゴロを乾燥させてエビ餌料原料を製造する処理方式を決定した。その後、平成18年10月に㈱ケイエム飼料函館が処理施設の建設工事に着手し、平成19年6月1日から操業している。

平成25年度からは、函館地域のいか残滓排出企業で構成される函館地域いか残滓排出企業協議会を設立し、函館地域のいか残滓の適正処理推進を図っている。

### ア 主な経過

平成15年	6月17日	日本化学飼料㈱から5年を目途にイカゴロ処理部門から撤退する旨、通告
平成15年	7月29日	渡島・松山いか残滓対策連絡協議会（平成7年12月1日設立）を解散
平成15年	8月22日	道南いか残滓安定処理対策協議会を設立
平成17年	2月21日	イカゴロを乾燥させエビ餌料原料にリサイクルする処理委託方式を決定
平成17年	10月24日	イカゴロ処理施設建設に係る住民説明会を開催
平成17年	10月28日	函館特産食品工業協同組合がイカゴロ処理施設建設予定地を取得
平成18年	3月15日	いか残滓処理事業のための新会社㈱ケイエム飼料函館（運営主体）が設立
平成18年	10月2日	㈱ケイエム飼料函館が処理施設建設工事に着手
平成19年	3月31日	処理施設完成
平成19年	6月1日	操業開始
平成25年	8月5日	函館地域において、いか残滓排出企業のみで構成する「函館地域いか残滓排出企業協議会」を新たに設立

## 5 デザイン産業の振興【食品加工】

市内のデザイナーと企業をマッチングさせ、デザイン性の高い商品開発等を支援することにより、地場製品のブランド化を促進するとともに、民間企業が発注するデザイン関係の仕事を増加させることにより、函館地域のデザインビジネスの活性化を図り、「デザイン都市函館」を目指す。

### (1) ビジュアルコミュニケーション導入支援事業（平成25～27年度）

「商品・サービスの価値を的確に伝えるデザイン（ビジュアルコミュニケーション）を重要視し、経営者とデザイナーが協業で取り組む企業を生み出し、デザイナーの活躍の場を増やす」ことを目的として、デザインに関するニーズが高い地元食品加工企業とデザイナーをマッチングさせ、経営者とデザイナーによるデザイン戦略の策定を支援した。

①平成25～27年度事業実績：導入支援事業 6社

### (2) ビジュアルコミュニケーションPR活動（平成28年度～平成29年度）

上記ビジュアルコミュニケーション導入支援事業により一定の効果を創出したが、市内一般企業の認知度や理解度は必ずしも十分とは言えない状況にあることから、中小企業者が集まる会合等においてセミナーを開催し、当該事業の実績、効果および必要性を説明したほか、地元のデザイナーや活動状況等について紹介する小冊子を制作・配布した。

ア 平成28年度事業実績：セミナー開催5回，参加者のべ134名

イ 平成29年度事業実績：セミナー開催3回，参加者のべ96名

### (3) 函館パッケージ展開催事業（平成30年度～令和2年度）

企業や商品の魅力を効果的に消費者に伝えていくためには、『デザインの力』を活かした戦略的な取り組みも大切であることから、企業と地元デザイナーの出会いの場をつくることを目的に「商品パッケージのデザインをつくりたい、またはリニューアルしたい！」と考えている市内食品加工企業と、「デザイン制作を通じて、企業と接点を築いていきたい！」と考えている地元デザイナーをそれぞれ公募し、地元デザイナーが開発したパッケージデザインを展覧会で紹介する。

#### ア 平成30年度事業実績

開催日時 平成31年2月13日（水）～17日（日）

開催場所 函館コミュニティプラザ Gスクエア

出展作品数 35点 来場者数 495名

参加企業 ㈱三海幸（昆布製品），北海道製菓㈱（菓子），㈱マルヒラ川村水産（発送箱）

#### イ 令和元年度事業実績

開催日時 令和2年2月12日（水）～16日（日）

開催場所 函館コミュニティプラザ Gスクエア

出展作品数 35点 来場者数 444名

参加企業 ㈱エムティーコーポレーション（菓子），ソーシャル・エージェンシー㈱（野菜），トナミ食品工業㈱（冷凍魚），函館空港ビルディング㈱（肉製品）

ウ 令和2年度事業実績

開催日時 令和3年2月17日(水)～21日(日)

開催場所 オンライン(函館パッケージ展公式HP)

出展作品数 13点

参加企業 荒湯製作所(レトルトカレー), (有)タカハシ食品(冷凍魚)

## VI 工業の振興

本市の工業は、明治36年（1903年）に函館ドックの乾ドックが完成したのを端緒として近代化が始まり、北海道内陸部の開発や水産業、貿易の発展とともに成長してきた。

特に、第2次世界大戦前は、北洋漁業等により、造船、缶詰機械をはじめ、水産加工、漁網・ロープ等の水産関連産業が飛躍的に発展し、我が国有数の産業拠点として、その経済圏は、北海道全域はもとより、遠くサハリン、カムチャッカ等にも及び、本市の工業は黄金期を迎えた。

戦後、これらの産業を支えた市場を一挙に失い、本市の工業は一時的に危機的な状況に陥ったが、戦後復興と北洋漁業の再開を契機に、北海道と本州を結ぶ人・物資の集散地として一定の経済圏を確立し、造船関連機械工業と水産食品加工を中核業種に、高度経済成長期を通じて比較的順調に伸長してきた。

しかし、昭和48年のオイルショックのほか、200海里規制などの国際的な社会経済環境の大きな変化を受けて、造船等の基幹業種が構造不況の荒波に揉まれ、本市の工業は長期の低迷状態を余儀なくされていたが、昭和59年テクノポリス函館の指定を機に、地域企業の技術高度化と先端技術産業の立地促進を目標に産業構造の高度化に取り組んできた。

その後、テクノポリス函館の推進とともに、折からの好況期とも重なり、本市の工業は着実に発展してきたが、バブル経済の崩壊後は、全国的な不況により本市の工業をはじめ、地域経済も低調な推移を余儀なくされた。

また、情報化の進展などによる経済活動のグローバル化、地球環境問題の顕在化、本格的な高齢社会の到来による生産年齢人口の減少、国民の価値観の多様化など、我が国の社会経済環境の更なる変化は、地域社会にも同様の変化をもたらしていることから、本市工業の振興発展を図るには、限られた資源を有効に活用する方策を立案し、地域自らが行動していくことが重要である。

このため、より一層企業活動を活性化させるために、地域の産学官が一体となって、21世紀の地域経済を支える工業の振興発展を図る指針として平成12年3月に「函館市工業振興指針」を策定したほか、平成21年1月には「函館市企業立地の促進に関する条例」を施行し、安定的な雇用機会の創出および産業集積の活性化を目指し、各種施策を展開している。

### 函館市工業振興指針

#### 函館市工業の目指す姿

環境共生・情報化に対応する産業技術の創出とチャレンジをキーワードとする新産業の創造と定め、次の5つの振興方策を推進する。

- (1) 特色ある地域産業の創出と製品の高付加価値化
- (2) ハイテク・ベンチャーを創出する風土の醸成と産業活動機能の再構築
- (3) 経済環境の変化に柔軟に対応する総合的企業支援ネットワークの形成
- (4) ビジネスチャンスを活かす積極果敢な市場・販路開拓
- (5) 生産基盤の整備と有機的連携の強化

厳しい経済環境におかれている中小企業対策については、生産設備の近代化の促進やものづくり人材の確保・育成など関係業界の抱える個別課題に即した基盤強化や活性化対策を進めてきている。

新技術の導入や新製品の開発については、北海道立工業技術センターと連携し、国等の支援制度の活用等により企業の研究開発を促進してきているほか、地域の大学等の学術機関との産学連携を促進してきている。

企業誘致に関しては、首都圏での企業訪問や地域資源ビジネスマッチング事業における産学官連携によるシティーセールスなど、多面的な誘致活動を行ってきた。平成14年度に工業用地の貸付制度の創設、平成15年度には第2次函館臨空工業団地第2期前期の分譲を開始しているほか、函館市企業立地の促進に関する条例に基づく助成制度など、社会経済環境の変化に即応する支援施策の充実を図り、企業誘致に積極的に取り組んでいる。

○ 函館市工業産業中分類別前年比較表

産業中分類	事業所数			従業者数(人)			製造品出荷額等(万円)		
	平成30年	令和元年	増減	平成30年	令和元年	増減	平成30年	令和元年	増減
【 総 数 】	254	247	△7	7,420	7,231	△189	17,431,070	17,308,148	△122,922
09 食料品	121	115	△6	4,310	4,137	△173	9,696,292	9,724,846	28,554
10 飲料・たばこ・飼料	5	6	1	122	123	1	195,078	183,952	△11,126
11 繊維工業	10	10	0	164	157	△7	175,668	166,503	9,165
12 木材・木製品	4	4	0	72	73	1	112,345	83,541	△28,804
13 家具・装備品	9	9	0	97	100	3	103,649	108,832	5,183
14 パルプ・紙・紙加工品	2	3	1	53	57	4	X	136,989	136,989
15 印刷・同関連業	17	16	△1	220	207	△13	231,206	216,533	△14,673
16 化学工業	4	4	0	123	127	4	405,554	449,331	43,777
18 プラスチック製品	1	1	0	33	33	0	X	X	X
19 ゴム製品	1	0	△1	12	0	△12	X	0	X
20 なめし革・同製品・毛皮	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21 窯業・土石製品	4	6	2	23	49	26	59,121	90,031	30,910
22 鉄鋼業	4	5	1	189	198	9	520,588	502,043	△18,545
23 非鉄金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24 金属製品	21	21	0	267	289	22	572,577	642,450	69,873
25 はん用機械器具	5	5	0	45	44	△1	69,131	62,584	△6,547
26 生産用機械器具	10	8	△2	382	392	10	981,625	928,120	△53,505
27 業務用機械器具	3	3	0	40	45	5	165,925	175,964	10,039
28 電子部品・デバイス	3	3	0	415	391	△24	965,954	1,055,265	89,311
29 電気機械器具	2	2	0	20	21	1	X	X	X
30 情報通信機械器具	2	2	0	82	79	△3	X	X	X
31 輸送用機械器具	17	15	△2	665	634	△31	2,717,341	2,471,089	△246,252
32 その他の製品	9	9	0	86	75	△11	102,326	84,229	△18,097

資料：令和元年(2019)工業統計調査

(注) Xは総数に含む。

# 1 製造業の振興

## (1) 函館市企業立地の促進に関する条例に基づく助成措置

### ア 目的

企業立地を行う者に対する助成措置を講ずることにより、安定的な雇用機会の創出および産業集積の活性化を図り、もって本市の経済の発展に資することを目的として、平成21年1月1日に施行した。

### イ 制度の概要

(令和4年3月31日現在)

対象施設	対象業種	対象地区	補助要件・ 投資額・雇用増	助成内容				
				助成額 ※( )内は新設		限度額	通算限度額	
工場 試験研究施設 特定事業所 国際物流 関連施設 等	製造業 自然科学研究所 ソフトウェア業 データセンター事業 コールセンター業 国際物流関連事業 情報処理・提供 サービス業 ポータルサイト・ サーバ運營業 アプリケーション・サービス・ コンテンツ・プロバイダ インターネット 利用サポート業 デザイン業 植物工場	函館臨空 工業団地  函館テクノ パーク	2,500万円以上 (土地含む) 5人以上	5人 ～9人	投資額の10%	2億円	1社あたり 5年間で 5億円	
				10人 ～29人	投資額の15%			
				30人 ～49人	投資額の20%			
				50人～	投資額の25%			
		函館港港町 ふ頭港湾 関連用地	1億円以上 (土地含む) 0～4人	投資額の5%				
		上記の地区 以外の市内	2,500万円以上 (土地を含まない) 5人以上	5人 ～9人	投資額の5%(10%)			
				10人 ～29人	投資額の7.5%(15%)			
				30人 ～49人	投資額の10%(20%)			
				50人～	投資額の12.5%(25%)			
				1億円以上 (土地を含まない) 0～4人	投資額の2.5%			
特定事業所	データセンター事業 コールセンター業	市内全域	5人以上 新設のみ	1年あたり 雇用増1人に対し 30万円(～100人) 20万円(101～200人)		5,000万円	—	
				1年間(12月間) オフィス賃料の50%		500万円		
	ソフトウェア業 情報処理・提供 サービス業 ポータルサイト・ サーバ運營業 アプリケーション・サービス・ コンテンツ・プロバイダ インターネット 利用サポート業 デザイン業		3人以上 新設または増設	1年あたり雇用増1人に対し 雇用増1人あたり 50万円(5年間)		1年あたり 5,000万円		1社あたり 5年間で 2億円
				5年間(60月間) オフィス賃料の50%		1年あたり 1,000万円		

※ 本社が市外にある企業：新設で雇用増が5人以上の場合

対象施設	対象業種	対象地区	補助要件・ 投資額・雇用増	助成内容				
				助成額 ※( )内は新設		限度額	通算限度額	
工場 試験研究施設 特定事業所 国際物流 関連施設 等	製造業 自然科学研究所 ソフトウェア業 データセンター事業 コールセンター業 国際物流関連事業 情報処理・提供 サービス業 ポータルサイト・ サーバ運営業 アプリケーション・サービス・ コンテンツ・プロバイダ インターネット 利用サポート業 デザイン業 植物工場	函館臨空 工業団地	2,500万円以上 (土地含む) 5人以上	5人 ～9人	投資額の15%	3億円	1社あたり 5年間で 5億円	
		函館テクノ パーク		10人 ～29人	投資額の20%			
		函館港港町 ふ頭港湾 関連用地		30人 ～49人	投資額の25%			
				50人～	投資額の30%			
			上記の地区 以外の市内	2,500万円以上 (土地を含まない) 5人以上	5人 ～9人			投資額の15%
			10人 ～29人		投資額の20%			
			30人 ～49人		投資額の25%			
			50人～		投資額の30%			

ウ 令和3年度交付企業 13社（製造業：5社，ソフトウェア業等：8社）

(2) 研究開発や技術の高度化促進

ア 公益財団法人函館地域産業振興財団の概要

①目的 函館地域における高度技術に立脚した産業開発を促進する。

※平成23年4月1日から，公益財団法人に移行

②所在地 道立工業技術センター内（函館市桔梗町379番地）

③役員（令和3年4月1日現在）

- ・ 理事長 久保 俊幸（函館商工会議所会頭）
- ・ 副理事長 1名
- ・ 専務理事 1名
- ・ 理事 10名 監事 2名

④出捐団体：北海道，函館市，北斗市，七飯町，民間企業など

基金造成額：17億4,685万3千円（令和4年3月31日現在）

基本財産	717,943千円
技術振興基金	626,157千円
地域産業活性化基金	217,080千円
起業者支援基金	185,673千円

イ 北海道立工業技術センターの概要（函館市桔梗町379番地）（建設事業主体：北海道）

①目的 函館地域の中核的な試験研究機関として地域企業の広範な技術需要に応え，工業技術の高度化を図ることを目的に設置。

②開設 昭和61年10月1日

③施設概要 敷地面積 13,899.42㎡ 建物面積 延5,102.64㎡  
事務研究棟 2階建一部平屋 試験棟 1階建  
第2試験棟 1階建





b ファクトリー棟

・インキュベータファクトリー

新しい技術や製品の開発に取り組むための貸し試作工場（24時間利用可能）

室数：4室（各室96.89㎡）

設備内容：作業スペース，事務室，更衣室，便所等

料金：1月 26,220円

c インキュベータの入居状況

（令和4年4月1日現在）

区 分	設置室数	入居企業等
インキュベートルーム	4室	2社
プレインキュベートルーム	4室	3社
インキュベータファクトリー	4室	3社

(3) ものづくり広域連携推進事業

ア 目的 ものづくり系企業が自社のニーズにマッチした展示会に参加し、「函館のものづくり力」をPRすることで、新たなビジネスチャンスを獲得し、付加価値の高い新製品の開発・新事業の創出に繋げることを目的とする。

イ 令和3年度事業実績

函館地域外で開催される展示会、見本市、商談会等に参加する際の経費助成を行う。

対象業種：函館地域の製造業またはソフトウェア業

対象経費：出展料，展示工事費，滞在費，往復交通費，輸送費，展示パネル制作費，展示会での必要な人件費で，当該年度に実施される展示会の経費とする。

助成額：対象経費の2分の1（千円未満切り捨て，助成限度額750千円）

令和3年度交付企業 6社

①企業名：株式会社浅井ゲルマニウム研究所 展示会：食品開発展 2021

②企業名：上加冷機工業株式会社ほか4社 展示会：ビジネス EXP02021

(4) 新エネルギー等システム設置費補助金制度

ア 目的 新エネルギー等システムを設置する市内の個人または中小企業・小規模事業者等に対し，補助金を交付することにより，災害時の電力供給や環境負荷の低減に努めるとともに，環境に配慮したクリーンエネルギー活用に関する市民意識の醸成を目的とする。

イ 概要 新エネルギー等システムを設置する市内の個人または中小企業・小規模事業者等を対象に，その費用の一部を助成する。

①補助金額：太陽光発電システム：5万円

定置用リチウムイオン蓄電池：10万円

家庭用燃料電池（エネファーム）：10万円

ガスエンジンコージェネレーションシステム（コレモ）：10万円

②募集期間：令和3年4月1日から令和3年12月25日まで

ウ 令和3年度事業実績

①補助件数：太陽光発電システム：17件（うち蓄電池併用15件）

定置用リチウムイオン蓄電池：24件

家庭用燃料電池（エネファーム）：0件

ガスエンジンコージェネレーションシステム（コレモ）：17件

②補助金額：4,950千円（58件）

(5) その他

ア 鉱業の状況

市域内では、石材・砂利等の採掘が行われているが、河川汚濁、土砂流出等の鉱害対策に十分留意しながら採掘している。

イ 地域新エネルギー導入の推進

「函館市地域新エネルギービジョン」策定（平成12年2月）

ビジョンに基づき、新エネルギーの導入促進に努めている。

① 太陽光発電の公共施設への導入事例

あさひ小学校	教材用 (0.5kW)	平成14年度
総合保健センター	照明用等電源 (3.21kW)	平成15年度
はこだて幼稚園・千歳図書室	照明用等電源 (10kW)	平成15年度
赤川児童館	照明用電源 (3kW)	平成16年度
桔梗福祉交流センター	照明用電源 (3.21kW)	平成17年度
中央図書館	電灯, 動力設備 (30kW)	平成17年度
昭和小学校	外灯1基 (0.15kW)	平成18年度
亀田港児童館	照明用電源 (3kW)	平成19年度
弥生小学校	時計用電源 (0.45kW)	平成23年度
神山児童館	照明用電源 (3kW)	平成24年度
北消防署 末広出張所	自家用電力 (1.8kW)	平成25年度
東消防署 南茅部支署	自家用電力 (3.0kW)	平成26年度
東消防署 日ノ浜出張所	自家用電力 (3.75kW)	平成27年度
戸井西部総合センター	自家用電力 (5.3kW)	平成28年度
亀田交流プラザ	自家用電力 (10kW)	令和2年度

② 太陽光発電による売電事業

a 函館市新湊太陽光発電所の概要

・所在地	函館市新湊町257番地1のうち（敷地面積1,627㎡）
・システム容量	83.16kWh（41.58kWh×2 低圧敷地分割）
・発電システムの仕様	
太陽光パネル	ソーラーフロンティア社製 CIS薄膜系モジュール SF165-S（504枚） 最大出力：165kW/枚 モジュール面積合計：618.96㎡
パワーコンディショナー	オムロン社製 KP55M-PJ4（12台） 定格容量：5.5kW
・売電開始	平成26年7月29日
・設備設置の経過	（株）ジャックスが創業60周年記念事業として、新湊町の遊休市有地を賃借し、太陽光発電設備を設置したものであり、平成26年7月8日に（株）ジャックスおよび名誉会長である山根 要氏より当該設備の半分が市に寄贈された。

・発電実績および売電収入

年 度	発電実績 (kWh)	売電収入 (円)
令和3年度	103,431	4,095,860

※ H25年度の「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」により、  
売電単価は36円/kWh（税抜き）となっている

③ 民間事業者に対する導入支援（市有地の貸付）

貸地一覧（太陽光発電用地）	出力(kW)	事業者	開始
旧小学校用地（高岱町）	818.18	日商興産（株）	平成25年 9月
共働宿泊所隣接地（新湊町）	83.16	ジャックス・トータル・サービス（株）	平成26年 7月
旧高等学校用地（女那川町）	513.50	（株）テーケーワイ	平成28年 4月
旧小学校用地（釜谷町）	300.00	（株）サンフード	平成28年 7月
旧小学校用地（志海苔町）	642.60	ACAクリーンエナジー（株）	平成30年12月

※その他、現在も事業を検討している企業に対し、情報提供や関係者との調整などの支援を行っている。

## 2 IT産業の振興

### (1) IT技術者人材育成支援補助金

#### ア 目的

市内に立地するIT企業の立地初期段階における人材の確保および育成を支援することにより、市内IT産業の高度化および雇用機会の創出を図ることを目的とする。

#### イ 対象事業者

函館市企業立地の促進に関する条例に基づく補助金の助成を受ける立地IT企業

#### ウ 対象労働者

常用労働者で市内に住所を有する者、市内に通勤する者（自治基本条例上の市民）

#### エ 補助対象経費および補助金額

交付限度額は1事業所、1年度当たり500万円

交付対象事業者	対象労働者	区分	補助対象経費および補助金額	上限額
立地IT企業	常用雇用者	賃金助成	1時間あたり1,000円、360時間を上限とする	労働者1人あたり30万円

オ 令和3年度交付企業 2社

### (2) IT・ロボット等の活用による生産性向上支援事業

#### ア 目的

ITやロボット等に専門的な知識を有する者を派遣し助言を行う派遣事業やIoT機器の導入費用や試験研究機関との協同研究費用の一部助成、IoT機器の導入による生産性向上の具体的事例を紹介するセミナーや勉強会などを実施し、生産性向上を通じた地域経済の振興を図る。

#### イ 概要

##### ① 専門家（ITコーディネータ）派遣事業

生産性向上を目指す市内の中小企業者に対し、ITやロボットに専門的な知識を有する者を派遣し、経営状況に応じた生産性向上策を提案する。

##### ② 市内中小企業者がITやロボット（=IoT機器）の導入により生産性の向上を図り、課題解決に取り組む経費の一部を補助する。

a 補助内容 [専門家派遣型] ITやロボット等を活用したハード設備を導入する経費に対する補助。

補助率 1/2（上限10,000千円）

##### ③ DX普及啓発事業

市内中小企業者向けに、DXの意義や具体的事例を紹介するセミナーや勉強会等を実施する。

##### a 令和3年度実績

・中小企業のためのDX推進セミナー

日時 令和4年2月17日(木)

会場 函館コミュニティプラザGスクエア イベントスペースA・B

参加人数 会場参加4名、オンライン24名

### (3) プログラミング教室

#### ア 目的

早い段階からITやロボット、AI等に興味を持ち理解を深めるために、主に小学生から高校生までを対象としたプログラミング教室を開催し、IT分野における将来的なIT人材の裾野の拡大やIT分野全般に渡るレベルの底上げを図る。

#### イ 令和4年度実施予定

##### ① ロボットラボラトリ

a 開催回数 全10回程度

- b 開催日時 未定
- c 会場 はこだてみらい館シアター
- d 参加対象者 市内小学生1年～高校生
- e 実施内容 ロボット等を使用したワークショップ
- f 参加人数 各定員20名程度

ウ 令和3年度実績

①プログラミング教室

- a 開催回数 全15回
- b 開催日時 令和3年 9月 5日(日), 9月12日(日), 9月26日(日)  
10月10日(日), 10月24日(土), 10月31日(日)  
11月 7日(日), 11月21日(日), 12月 5日(日)  
12月19日(日)  
令和4年 1月 9日(日), 1月23日(日), 2月 6日(日)  
2月20日(日), 2月27日(日)
- c 会場 はこだてみらい館シアター, 北海道新聞函館支社
- d 参加対象者 市内小学生1年～高校生
- e 実施内容 Scratch, マインクラフトを使用したプログラミングワークショップ
- f 参加人数 延べ人数413名

②U-16プログラミングコンテスト函館大会特別講座

- a 開催日時 令和3年9月18日(土)～9月20日(祝) 全3回
- b 会場 はこだてみらい館シアター, 北海道新聞函館支社
- c 参加人数 延べ人数49名

(4) U-16プログラミングコンテスト

ア 目的

16歳以下の学生を対象としたプログラミングコンテストを開催し、習得したプログラム技能の更なる研鑽・モチベーションの向上を図る。

イ 令和4年度実施予定

- ①開催日時 令和4年10月23日(日) 午前10時～午後5時
- ②会場 函館市青年センター 体育館
- ③実施内容 [競技部門]対戦型ゲームプラットフォーム(CHaser)を使用し、使用基盤目フィールドの上で参加者が作成したプログラム同士を戦わせる対戦型の競技をトーナメント形式で実施  
[作品部門]コンピュータグラフィック(静止画、動画、アニメーション), Webページや自作プログラムなど自由に作成したデジタル作品を審査員が評価

ウ 令和3年度実績

- ①開催日時 令和3年10月24日(日) 午前10時～午後5時
- ②会場 函館アリーナ 多目的会議室A
- ③実施内容 [競技部門]対戦型ゲームプラットフォーム(CHaser)を使用し、使用基盤目フィールドの上で参加者が作成したプログラム同士を戦わせる対戦型の競技をトーナメント形式で実施  
[作品部門]コンピュータグラフィック(静止画、動画、アニメーション), Webページや自作プログラムなど自由に作成したデジタル作品を審査員が評価
- ④参加人数 競技部門参加者27名, 作品部門参加者8名

(5) IT技術者のための移住・就職セミナー

ア 目的

市では、これまでに、「IT人材育成支援補助金」などを新たに創設し、IT産業振興の重要なポイントとなるIT人材確保に注力してきたところである。

こうしたなか、地元IT人材の育成を図る一方で、核となる技術者をIJUターンで確保したいという市内既存IT企業や函館へ進出したIT企業からのニーズを受け、函館市で平成27年8月から展示ブースを設置している「ふるさと回帰支援センター」を活用し、函館市内のIT企業や函館に支店、子会社を持つIT企業などと一緒に、函館へのIJUターンを希望するIT技術者に対し、就職相談会等を行い、函館市におけるIT人材の確保を図るとともに、結果的に函館移住による人口増にもつなげることを目的に開催した。

イ 実績

- ①平成28年度 3回開催 延べ参加者40名（延べ参加企業14社）
- ②平成29年度 2回開催 延べ参加者24名（延べ参加企業10社）

(6) ターンズの地方のお仕事研究所

ア 目的

市では、平成28年度から「IT技術者のための移住・就職セミナー」を開催し、市におけるIT人材の確保を図るとともに、市への移住者の確保に努めてきたところである。

しかしながら、これまで同セミナーの開催では、一定数の参加者を確保できた一方で、参加企業への就職という実績に繋がらない状況にあり、今後も、「IT人材の確保」という本質的な課題への十分な実効性が期待しにくい状態にあることから、市内企業への就職を主としたこれまでのセミナーを改め、首都圏のIT技術者を対象に、市への興味を促すことを主たる目的とした「ターンズの地方のお仕事研究所」を開催したものである。

イ 平成30年度実績

- ①開催日時：平成30年9月29日（土）
- ②会場：TURNSコミュニティスペース（東京都千代田区有楽町）
- ③参加対象者：TURNSの読者
- ④参加人数：21名

(7) はこだてディベロッパーカンファレンス

ア 目的

IT業界の第一線で活躍する専門家による講演を通じて、本市IT企業関係者や学生等が、ITに関する新しい動向を共有することで、将来的なIT人材の裾野の拡大やIT分野全般に渡るレベルの底上げを図る。

イ 令和4年度実施予定

詳細未定

ウ 令和3年度実績

- ①開催日時 令和3年2月19日（土） 午後1時00分～午後6時
- ②実施内容 4講演
- ③会場 函館市亀田交流プラザ 大会議室1
- ④参加者数 会場20名、オンライン20名

(8) 函館市IoT推進ラボ

ア 目的

IT産業は、総務省においても、ICT成長戦略を推進するなど、わが国の成長分野として期待されている。そういった情勢の中、市においては、公立はこだて未来大学をはじめとする情報系の高等教育機関が集積している強みなどを生かし、人口減少抑制策の1つとしてIT企業の集積による若者の雇用の場の創出を目指している。また、市内の高等教育機関の技術力や、優秀な学生の存在、BCPの観点等から市は市外のIT企業からも注目を集め、開発、研究拠点等が設立されている。このような背景を踏まえ、市の強みを活かした新たなイノベーションの創出を核とした新産業の創出・雇用の拡大を目指し、「函館市IoT推進ラボ」を設立し、平成29年3月に経済産業省から選定を受けた。

## イ 令和4年度事業内容

### ①未来のIT人材確保事業

市内高校生向けの進学・企業説明会にIT企業コーナーを設け、進学で市外に出ていく高校生に市内のIT関連企業の紹介を行い、大学卒業後、函館へのIJUターンを検討してもらえるよう促すほか、IT人材確保パンフレットを作成し、将来に迷っている層に対し、函館市がIT企業の集積に力を入れていることをPRすることで、市内での就職に興味を持たせる。

### ②アイデアソン・ハッカソンの開催

市内IT企業と共催により、IT企業やものづくり企業、公立ほこだて未来大学の学生等を対象に、ビッグデータおよびAI・IoT活用による地域課題解決等に関する講演や、アイデアソン・ハッカソン等を開催し、IT人材の育成やIoT技術活用の普及啓発を図る。

## ウ 令和3年度実績

### ①第3回U-16プログラミングコンテスト函館大会【共催】

- ・開催日時 令和3年10月24日（日）
- ・実施内容 メンターの派遣
- ・会場 函館アリーナ
- ・参加状況 35名

### ②DXスタートアップセミナー【主催】

- ・開催日時 令和3年11月19日（金）
- ・実施内容 AIやIoTを活用した先進事例紹介
- ・会場 函館市産業支援センター
- ・参加状況 会場参加9名、オンライン参加13名

### ③中小企業のためのDX推進セミナー【主催】

- ・開催日時 令和4年2月17日（木）
- ・実施内容 AIやIoTを活用した先進事例紹介
- ・会場 函館市コミュニティプラザ Gスクエア
- ・参加状況 会場参加4名、オンライン参加24名

### ④アイデアソン【主催】

- ・開催日時 令和4年3月11日（金）
- ・実施内容 人流データを活用した地域経済活性化・地域課題の解決
- ・会場 オンライン
- ・参加状況 5チーム22名



## VII 創業・産学官連携の促進

経済活動のグローバル化による国際競争の激化など、地域経済を取り巻く環境が急速に変化してきているなか、地域産業の基盤を強固にし、さらに発展させるためには、創業の促進や産学官が連携した研究開発等による新事業の創出が不可欠な状況にある。

創業の促進については、全国的に開業率が廃業率を下回り、事業所数の減少傾向が続いているなかで、雇用創出という点からも重要な役割を担っているため、本市においては、創業バックアップ助成金など資金面からの支援とともに、ビジネスプラン作成スクールや実践創業塾を開催するなど、創業を促進する制度の充実に努めている。

また、産学官連携の促進については、当地域のポテンシャルを生かし、大学等の学術・試験研究機関との連携による共同研究等により、新製品や新技術の開発などに取り組むことを促進するなど、研究開発型企業の育成を図っている。

さらには、創業や研究開発等の支援機能を備えたインキュベーション施設を設置し、新規創業者の創出や新規事業を促進する体制を整えている。

### 1 創業の促進

平成26年度から、函館地域産業振興財団の創業支援のノウハウを活かし、創業予定者の段階に応じたセミナー・スクールを市と財団の共催事業として実施するなど連携を強化し、創業予定者への支援の充実に努めているところである。さらに、平成27年度からは、国から認定を受けた「創業支援等事業計画」に基づき、北斗市、七飯町や各創業支援機関とのネットワークを活用し、創業支援事業を効率的に実施していく。

#### (1) 創業バックアップ助成金

##### ア 目的

函館市における新たな創業への取組みを奨励・促進し、地域経済の活性化を図ることを目的とする。

##### イ 助成対象事業

製品やサービス等に優位性（新規性、創意性、強み、など）があり、新たな需要や雇用の創出、さらには、市の経済を活性化する事業。

##### ウ 助成対象者

製造業、卸売業、小売業、サービス業およびその他の業種を営む個人または中小企業者であって、函館市内に事業拠点を設け、新たに創業する者または創業から5年以内の者で、自ら作成した事業計画を実施するための資金を必要とする者。（若者枠はその条件に加え、35歳未満であること）

##### エ 助成対象経費

助成事業を実施するために必要な次の経費とする。

旅費、拠点開設費（設備購入費、設備借入経費）、原材料購入経費、委託経費、技術導入費（食料費、交際費等の消費的経費を除く。）、人件費（申請者および役員を除く。）、開業手続経費、広告宣伝経費（食料費、交際費等の消費的経費を除く。）

##### オ 助成額

一般枠：500万円を上限に審査により決定

若者枠：100万円を上限に審査により決定

##### カ 創業バックアップ助成金審査委員会

創業バックアップ助成事業に関する審査を行うため、財団に創業バックアップ助成金審査委員会を置く。

## キ 創業バックアップ助成金の実績

令和3年度実績

- ①募集期間 令和3年4月1日(木)～5月14日(金)
- ②応募件数 16件(函館市14件, 北斗市1件, 七飯町1件)
- ③採択者数 4件(函館市3件, 北斗市1件)
- ④採択された応募者 漆寄 照政 函館五稜乃蔵(株)(助成金額300万円)  
中田 弥幸 HAKODATE ADVENTURE TOUR(助成金額200万円)  
成田 陸也 アールリアルエステート(株)(助成金額100万円)(若者枠)  
井坂 真介 DUE PUNTI(株)(助成金額300万円)(北斗市)
- ⑤助成金額計 900万円(函館市600万円, 北斗市300万円)

## (2) 創業支援セミナー

### ア 目的

起業・創業経験者や企業家, 金融関係者等を講師としたセミナーを開催することにより, 起業・創業前に必要な知識やスキルの習得を目指すほか, 講師自身の体験談等から創業のヒントなどを学ぶことを目的とする。

### イ 対象者

創業に関する基礎知識の習得を目指す者および創業に興味・関心のある者。

### ウ 実績

令和3年度実績

#### ①新規事業セミナー

- ・開催日時 令和3年7月28日(水) 18:30～20:30
- ・実施内容 (株)サンクラッド 代表取締役 馬場 加奈子 氏  
「“地域のためになる”をビジネスにするヒント ～住民の「困りゴト」の解決からビジネスを発展させる～」
- ・会場 函館国際ホテルおよびZoom配信
- ・参加状況 80名(会場52名, Zoom28名)

#### ②事業承継セミナー

- ・開催日時 令和3年8月18日(水) 14:00～16:30
- ・実施内容 「これからの事業承継」  
第1部 川村中小企業診断士事務所 代表 川村 浩司 氏  
第2部 (株)日本政策金融公庫函館支店 融資課長 遠藤 聡 氏
- ・会場 北海道立工業技術センター会議室およびZoom配信
- ・参加状況 13名(会場7名, Zoom6名)

#### ③DXスタートアップセミナー ～DXでつかむ企業の未来～

- ・開催日時 令和3年11月19日(金) 13:30～16:00
- ・実施内容 第1部 経済産業省北海道経済産業局 地域経済部 種田 美穂 氏  
国のDX推進施策について「道内中小企業のDX推進支援に向けて」  
第2部 (株)フォーバル コンサルティング推進事業本部 執行役員 平良 学 氏  
“待ったなし”のDX改革時代にすべての中小企業経営者がやるべきこと
- ・会場 函館市産業支援センターおよびZoom配信

- ・参加状況 30名（会場16名，Zoom14名）

### （3）創業プラン作成講座（ビジネスプラン作成スクール）

#### ア 目的

創業に関する講義およびグループディスカッションによるビジネスプラン作成実習を通じて、事業の推進に必要なビジネスプランの作成方法および事業開始後のビジネスプランのブラッシュアップの仕方について学ぶことを目的とするが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底するため、例年実施しているビジネスプラン作成スクールのグループワークを省略した個人向け集中開催版として実施。

#### イ 対象者

創業や事業の推進に必要なビジネスプランの作成手法の習得を目指す者

#### ウ 実績

令和3年度実績

- ・開催期間 令和4年2月5日（土）～令和4年3月25日（金）
- ・会場 函館市産業支援センター
- ・受講者数 12名

### （4）創業スキルアップ講座

#### ア 目的

創業予定者、創業して間もない方などを対象に、受講生が年間を通じて、受講可能な時期に、ビジネスプランの作成、経営、財務、販路開拓・マーケティングの知識を習得可能な講座を開催し、創業実現を目指すことを目的とする。

#### イ 対象者

創業予定者、創業して間もない者および第二創業を考える企業の経営者や企画担当者であって、具体的な事業計画を有する方や将来的にアイデアの事業化を図る者

#### ウ 令和3年度実績

- ①開催期間 令和3年8月26日（木）～令和4年3月4日（金）
- ②会場 工業技術センター
- ③受講者数 延べ150名
- ④カリキュラム 創業に必要な実践的知識を得るための講義・演習、地元の企業経営者による体験事例発表、事業個別発表・個別相談等

### （5）インキュベーション施設

函館市産業支援センター 施設の概要については、52ページを参照

### （6）函館きぎょう支援ネットワーク

#### ア 目的

函館地域で起業・創業・新事業にチャレンジする方に対して、起業支援の人的インフラを整備、構築することを目的とする。

#### イ ネットワーク構成者

地域企業経営者（経営経験者）や各種専門家

#### ウ 支援内容

起業育成や個別相談のほか、函館地域産業振興財団が実施する起業・創業支援への協力

## 2 若者の創業支援事業

### (1) 目的

創業は、新たな産業や就業機会の創出、経済成長をもたらす重要な要素であることから、本市においては、国や地域の創業支援機関と連携し、2市1町体制（函館市、北斗市、七飯町）で地域での創業支援の強化を図っている。

一方で、我が国は主要先進国の中でも開業率が低く、全国的に創業希望者や創業者が減少傾向にある中で、将来の社会の担い手である若者の創業を育成・支援する必要性が非常に高まっていることから、創業予備軍の若者が置かれている段階に応じ、創業の認知度向上やロールモデルの発掘、人脈作り等の支援を行うことで若者の創業を促進し、地域の活性化に貢献する人材を育成することを目的とする。

### (2) 事業内容

#### ア 学生等に向けたセミナーの開催

①概要：学生向けの創業セミナーを開催し、ビジネスアイデアの発見からビジネスモデルの確立までを学ぶことを目的とする。ビジネスプランの作成を経験することで、創業の意識の醸成を図る。

②対象者：市内の高等教育機関の学生等

<Keio sfc-TOMODACHI Entrepreneurship Seminar “Pre Seminar” in函館>

a 概要：慶応大学のキャンパスで実施される合同型研修や最終発表会に向け、ビジネスアイデアの発見やビジネスプランの確立を目指すセミナーのプレイベントを函館で実施。

b 開催日時 令和3年10月31日（日）13時00分～17時00分

c 実施内容 講義およびグループワークなど

※講師 SFCフォーラムファンド ファンドマネージャー 廣川 克也 氏

d 会場 函館コミュニティプラザGスクエア イベントスペースB

e 参加状況 10名（対面参加8名，オンライン参加2名）

#### イ 創業者との交流カフェの開催

①概要：創業予備軍の若者に対し、創業意欲の醸成を働きかけるとともに、創業に必要な知識や技術に関する情報を習得する機会の創出を図ることを目的としている。

②対象者：創業に関心がある若者（各10名程度）

・実績：令和3年度（第7，8回）

##### 第7回

日時 令和3年11月27日（土）14：00～16：00

会場 函館大三坂オフィス（函館市末広町18-25大三坂ビルディング2階）

講師 株式会社ロカラ 代表取締役 中川 真吾氏

参加 5名

##### 第8回

日時 令和4年3月22日（火）14：00～16：00

会場 CoSta（函館市末広町14-1ウエストサイドテラス2階）

講師 kaya/CoSta 代表 森田 恵弓氏

参加 11名（対面参加6名，オンライン参加5名）

## ウ チャレンジショップの開催

①概要：蔦屋書店の集客力と発信力を生かしたチャレンジショップを開催し、創業希望者に対しては市場調査の機会を、既に創業しているものに対しては、販路や顧客開拓の機会を提供することで、若者の創業を促進することを目的とする。

②対象者：創業前または既に創業している若者

③実績：令和3年度

日時 令和3年8月21日（土）～22日（日） 10時～17時

会場 函館蔦屋書店 中央吹き抜けマルシェ（函館市石川町85-1）

出店者 10者

## 3 産学官連携の促進

函館地域は、水産・海洋に関する恵まれた自然環境を有するなどの地理的・自然的要因から、水産・海洋に関する裾野の広い産業の集積が図られており、また北海道大学大学院水産科学研究院や公立はこだて未来大学をはじめとする学術・試験研究機関が立地しているなどのポテンシャルを有している。この特性を有効に活用し、国際的水産・海洋に関する学術研究拠点都市の形成を目指した「函館国際水産・海洋都市構想」のもと、これまで取り組んできた各種事業により得たノウハウやネットワークなどの活用を図りながら、研究開発から事業化までの一貫した推進体制を構築することで、多様な産業に波及し国際競争に打ち勝つ持続可能なマリンバイオクラスターの形成に取り組んでいく。また、地域の有志企業が立ち上げた「産学連携『クリエイティブネットワーク』」を中心に、市内の大学、高専などと産学連携事業を推進し、事業化シーズの発掘と既存事業の高度化を図っている。

### (1) 函館マリンバイオクラスターの形成

#### ア 基本的な考え方

国（総合科学技術会議）の「科学技術による地域活性化戦略」（H20.5）においては、大学等の研究成果を活用したイノベーションの創出による地域活性化の重要性がうたわれているが、その実現のためには、文部科学省をはじめ、経済産業省など「国等の競争的研究資金」を獲得し、大学等の研究シーズを活用した新事業・新産業の創出が重要である。

本市においては、文部科学省所管の「地域イノベーション戦略支援プログラム」や市の事業である「函館マリンバイオクラスターフォローアップ補助金」等の実施を通じて、地域の大学・高専、公設試験研究機関、一次産業を含む産業界の密接な連携が図られるなど、地域の研究シーズ等を活用した産業振興策に取り組んできたところである。

今後もこれまで培ってきたノウハウや地域の優位性を生かし、函館地域産業振興財団、北海道大学大学院水産科学研究院および北海道と連携して、国に対して後継となる事業（ポストマリンバイオクラスター事業）の提案に向け取り組むとともに、世界に通用する持続的に発展可能な「函館マリンバイオクラスター」の形成を目指す。

#### ①主な経過

H15～H17 都市エリア産学官連携促進事業（一般型）【文部科学省】

H18～H20 都市エリア産学官連携促進事業（発展型）【文部科学省】

H21.7 知的クラスター創成事業【文部科学省】事業採択内示

H21.9 知的クラスター創成事業【文部科学省】事業開始（国の委託事業）

H22.4 地域イノベーションクラスタープログラム【文部科学省】に名称変更

H23.4 地域イノベーション戦略支援プログラム【文部科学省】に名称変更

## H26. 4 函館マリンバイオクラスターフォローアップ補助金【函館市】

### ②事業成果（H26. 3時点）

- a 参画企業数 120社
- b 新商品数（累計） 303品目
- c 関連商品売上累計額 約100億円

## イ 地域イノベーション戦略支援プログラム（グローバル拠点育成型）【文部科学省】

### ① 事業概要

産学官連携による新技術シーズの創出や実用化につながる研究開発までの一体的な推進，国内外の他地域との連携によるクラスターの広域化など幅広い活動を戦略的に展開することにより，世界中からヒト・モノ・カネを惹きつけ，世界を相手に勝負できる世界レベルのクラスターを形成することを目的とする事業

### ② テーマ名

「函館マリンバイオクラスター

～UMI（Universal Marine Industry）のグリーン・イノベーション～」

### ③ 中核機関 公益財団法人函館地域産業振興財団

### ④ 事業期間 平成21～25年度（5年間）

### ⑤ 提案者 北海道・函館市

### ⑥ 事業規模（函館地域）

1年度あたり3億円程度×5年間

（H21は3億円，H22は2億7,600万円，H23は3億円，H24は3億875万円，H25は2億2,600万円）

※H21は委託費，H22以降は補助金

※市補助金（地域負担金として北海道と折半）H21は5,163千円，H22～H25は8,850千円

### ⑦ 主な参画機関

#### a 参画大学等 11大学等

北海道大学大学院水産科学研究院，公立はこだて未来大学，函館工業高等専門学校など

#### b 参画公設試験研究機関 4機関

北海道立工業技術センター，北海道立総合研究機構食品加工研究センターなど

#### c 参画企業等 120社

### ⑧ 研究テーマ（概要）

#### テーマ1 海洋環境の計測・予測技術に関する研究

- ・水産海洋GISシステムを活用した海洋環境予測システム
- ・ユビキタスブイ・ユビキタス端末の開発

#### テーマ2 海洋資源の増養殖に関する研究

- ・北方系メガベントスのライフサイクル操作と高機能種苗の形成
- ・海のグリーン栽培工場の構築

#### テーマ3 高機能性物質の抽出に関する研究

- ・ニュートリゲノミクス解析に基づく高機能メガベントス食品素材の創出
- ・メガベントス由来未利用資源を用いた高機能材料の創出

#### テーマ4 食の安全安心，ブランド化に関する研究

- ・水産食品の生産・流通革新技術の開発
- ・地域食品ブランドの信頼性・安全性の保障支援システム

## ウ 都市エリア産学官連携促進事業【文部科学省】

### ① 一般型

#### a 事業概要

地域の個性発揮を重視し、大学等の「知恵」を活用して新技術シーズを生み出し、新規事業の創出、研究開発型の地域産業の育成等を目指して産学官共同研究等を実施することを目的に、ある程度産学官連携の事業実績がある地域において、分野特化を前提に、新技術シーズ創出を図る事業。

b 事業期間 平成15～17年度（3年間）

c 研究テーマ ガゴメのライフサイクル操作等に関する開発研究  
イカ資源の高価値化と健全性確保に関する開発研究

d 研究概要 函館エリアの水産・海洋に関わる独創性豊かな科学技術を融合させ、海洋生物の総合的資源開発を目指し、当エリアの代表的な水産資源であるコンブやイカの高価値化を進める。

e 国の補助金 約1億円/年（道・市補助金 各100万円/年）

### ② 発展型

#### a 事業概要

一般型終了地域のうち、特に優れた成果を上げ、今後の発展が見込まれる地域において、これまでの成果を活かした産学官連携活動を展開することにより、地域のイノベーションシステムをさらに発展させ、継続的な新事業の創出等を目指す事業

b 事業期間 平成18～20年度（3年間）

c 研究テーマ マリン・イノベーションによる地域産業網の形成

d 研究概要 一般型における研究成果を土台として、地域に構築された産学官連携体制をより強固なものとし、新たに生まれた革新的なシーズと企業ニーズを基に、優れた地域水産資源の高度活用や品質保証技術などの研究をさらに発展させ、生産から加工、流通、消費に至る地域内に内包する一貫した産業機能を目指す。

e 国の委託費 約2億円/年（道・市補助金 各200万円/年）

## エ 函館マリンバイオクラスターフォローアップ補助金【市補助金】

### ① 事業概要

「地域イノベーション戦略支援プログラム」は平成25年度で終了したが、これまで培ってきたノウハウや地域の優位性を生かした研究開発の継続のため、函館地域産業振興財団、北海道大学大学院水産科学研究院および北海道と連携し、国に対して後継となる事業（ポストマリンバイオクラスター事業）の提案に向け取り組む。

### ② 内容

函館地域産業振興財団に専門員1名を配置。下記について実施。

a マリンバイオクラスター形成事業で進められている新製品の研究開発の継続的支援や販促活動

b 国際水産・海洋総合研究センターと地元企業とのコーディネート

c ポストマリンバイオクラスター事業獲得に向けた活動

（北海道大学大学院水産科学研究院、函館地域産業振興財団、函館市の3者により進める）

③ 事業期間 平成26年度（単年度）

④ 総事業費 5,500千円

※うち市補助金4,500千円（専門員1名の人件費:3,500千円+事業費の2分の1:1,000千円）

※残りの事業費:1,000千円は財団負担

## (2) 産学連携「クリエイティブネットワーク」の概要

### ア 目的

学術・試験研究機関，行政とのパートナーシップのもとに，大学，高等専門学校等と企業人との連携を図り，より競争力のある企業体質への転換と新しい理論や開発された新技術を産業活動に生かし，地域の産業経済の自立的な発展に寄与することを目的とする。

イ 設立 平成11年11月20日

ウ 会員 40（企業等34，大学・高専5，函館市）（令和4年7月7日現在）

エ 代表 ㈱グローバル・コミュニケーションズ 専務取締役 笹谷 努

オ 事務局 函館市（平成21年7月～）

カ 事業内容 市内大学・高等専門学校による研究成果発表会を年2回程度開催するほか，大学等との意見交換会，大学側の企業見学会や講演会などの活動を実施。

### キ 実績

#### ①平成29年度実績 幹事会2回，総会1回

- ・平成29年11月 企業視察等（長野県1泊2日 参加者10名）
- ・平成30年 2月 産学連携勉強会「地域に必要とされる企業を目指して」  
株式会社千田精密工業 代表取締役 千田 伏二夫 氏

#### ②平成30年度実績 幹事会1回，総会1回

- ・平成30年 5月 会員企業向けアンケートの実施
- ・平成30年11月 企業等視察研修（岐阜県，滋賀県2泊3日 参加者11名）
- ・平成30年12月 公立はこだて未来大学キャリアセミナー（参加企業3社）
- ・平成31年 2月 北海道大学教育大学函館校業会研究会（参加企業1社）
- ・平成31年 3月 函館商業高校情報処理科の生徒を対象とした企業説明会（参加企業5社）

#### ③令和元年度実績 幹事会1回，総会1回

- ・令和元年 10月 企業等視察研修（旭川市周辺1泊2日，参加者15名）
- ・令和元年 12月 公立はこだて未来大学キャリアセミナー（参加企業3社）
- ・令和2年 1月 産学連携「クリエイティブネットワーク」設立20周年記念講演会  
「宝塚歌劇100年の歴史から学ぶ・人材育成の本質と組織の活性化  
～人が輝き組織が活きる心と身体の磨き方～」 堀内 明日香 氏（元宝塚歌劇団）
- ・令和2年 2月 函館商業高校情報処理科の生徒を対象とした企業説明会（参加企業9社）

#### ④令和2年度実績 総会2回 ※いずれも書面開催

- ・令和2年 12月 公立はこだて未来大学キャリアセミナー（参加企業2社）
- ・令和2年 12月 函館工業高等専門学校地域連携協力会との共催によるオンライン・マネジメント講座の開催
- ・令和3年 3月 函館商業高校情報処理科の生徒を対象とした企業説明会（参加企業5社）
- ・令和3年 3月 北海道函館高等技術専門学院機械技術科・システム制御技術科の生徒を対象とした企業説明会の開催（参加企業2社）

#### ⑤令和3年度実績 幹事会1回，総会2回 ※いずれも書面開催

- ・令和3年 12月 公立はこだて未来大学キャリアセミナー（参加企業5社）



- ・令和3年 12月 函館工業高等専門学校地域連携協力会との共催によるオンライン・マネジメント講座の開催
- ・令和4年 2月 函館商業高校情報処理科の生徒を対象とした企業説明会（参加企業4社）
- ・令和4年 3月 函館工業高等専門学校地域連携協力会との共催による産学連携講演会  
函館の地酒「五稜に掛ける想い」  
五稜乃蔵杜氏，上川大雪酒造副社長総杜氏 川端 慎治 氏

(3) 学術研究機関における産学官連携関連施設

ア 北海道大学大学院水産科学研究院

①北海道大学マリンフロンティア研究棟

学術・研究の高度化，多様化，進展等に伴い，部局の枠を越えて行う共同研究またはプロジェクト研究・教育等を行う施設

②北海道大学マリンサイエンス創成研究棟

水産・海洋科学分野の国際学術研究拠点としての優位性を有する函館キャンパスで，学内の共同研究や大学と企業との共同研究を推進し，新産業の創成や地域産業・経済の活性化に貢献することを目的に建設され，重点化・集中化・大型化したプロジェクトなど水産・海洋の先端的・独創的研究を展開している施設

イ 公立はこだて未来大学

①公立はこだて未来大学社会連携センター

公立はこだて未来大学が有する研究ノウハウや研究成果等を活用した産学連携や共同研究の推進のほか，社会とのより多様な連携を支援・推進するための専門組織

②サテライトオフィス（東京都文京区）

首都圏の企業や大学，研究機関等との連携を図り，共同研究等の窓口とするため，一般社団法人社会システムデザインセンター内に開設しているオフィス

ウ 函館工業高等専門学校

函館工業高等専門学校地域共同テクノセンター

地域との連携や地域に対する技術支援を進めるため，材料開発や環境生物機能などの分野に関する共同研究，受託研究をはじめ，企業の技術開発相談窓口を設置している施設

## VIII 企業誘致の推進

企業立地は、地域における雇用の創出や産業の活性化、さらには定住人口の増加につながるなど、地域にもたらす効果が大いことから、当市においては重要な施策と位置づけ、これまで鋭意取り組んでいるところである。

具体的には、立地企業の受け皿となる臨空工業団地やテクノパークを整備するとともに、立地企業の初期投資の負担軽減を図るための助成制度や工業用地貸付制度を設けたほか、工業団地の分譲価格の見直し引き下げを行い、立地しやすい環境づくりに努める一方で、函館ものづくり産業アンバサダー制度などを活用した、首都圏等での積極的な企業訪問や産学官金連携でのシティセールス事業を実施するなど、様々な角度から、誘致活動を進めてきている。

平成30年度には、新たに企業立地担当課長を配置し、企業誘致体制の強化を行ったほか、北斗市、七飯町などと構成する、函館地域経済牽引事業促進協議会との連携を図り、首都圏のみならず、北海道新幹線沿線の北関東や東北地域もターゲットに見据えながら、これまでも誘致対象業種として重点的に取り組んでいる、先端技術産業や機械器具製造業などに加え、IT関連産業や「函館国際水産・海洋都市構想」に係わる関連産業の誘致に積極的に取り組み、地域経済の発展と雇用機会の拡大に努める。また、体制強化後は特に、進出後の手厚いサポートにも注力しており、若者の地元定着支援事業を実施するなど、誘致した企業と市内の若年層との接点をつくり、企業の人材確保や若年層の市外流出抑制にも積極的に取り組んでいる。

### 1 工業団地の状況

#### (1) 函館臨空工業団地

所在地	鈴蘭丘町および東山町	
用途地域	工業地域（特別工業地区）	
地目	宅地	
立地条件 (距離)	国道5号 9km, 函館港 9km,	函館空港 8km, 新函館北斗駅 24km, JR函館駅 9km
工場適地面積	569,300㎡	
産業用地面積	273,400㎡	
分譲価格	10,000円/㎡ (※H19.8に17,060円/㎡から引き下げ)	
第1次造成	完成年月	昭63.11(1期), 平元.11(2期)
	工業用地	140,400㎡(完売)
	立地状況等	製造業5社, 印刷・同関連業1社
第2次第1期造成	完成年月	平4.11
	工業用地	95,000㎡
	立地状況等 (R2.7月現在)	分譲済 83,500㎡(製造業3社, 情報サービス業1社) 分譲中 11,500㎡
第2次第2期前期造成	完成年月	平16.1
	工業用地	38,000㎡
	立地状況等 (R2.7月現在)	分譲済 6,400㎡(製造業2社) 分譲中 31,600㎡

(2) 函館テクノパーク

所在地	桔梗町
用途地域	準工業地域
地目	宅地
立地条件 (距離)	国道5号 0.5km, 函館空港 10km, JR函館駅 6km, 函館港 3km, 新函館北斗駅 15km
工場適地面積	65,400㎡
産業用地面積	24,900㎡
分譲価格	25,000円/㎡ (※H21.4に41,830円/㎡から引き下げ)
完成年月	平9.11
立地状況等 (R4.7月現在)	分譲済 24,807㎡ (情報・技術サービス業9社, 研究機関1社, 製造業7社) 分譲中 なし

2 工業用地の貸付制度

平成14年4月1日から、函館臨空工業団地および函館テクノパークの工業用地を10年以内に購入することを条件に、貸し付ける制度を導入した。

(1) 制度の概要

区分	函館臨空工業団地(鈴蘭丘町・東山町)	函館テクノパーク(桔梗町)
貸付の対象となる業種	はん用機械器具製造業, 生産用機械器具製造業, 業務用機械器具製造業, 電気機械器具製造業, 輸送用機械器具製造業	情報サービス業, 研究所, デザイン業, システムハウス, 製造業
貸付料	月額11円/㎡程度 (区画により異なる)	月額41円/㎡程度 (区画により異なる)
保証金	土地賃貸借契約時に、貸付料月額の12箇月分を契約保証金として納付	

- (2) 貸付実績
- 平成14年度 函館テクノパーク 1件 (平成24年度で貸付終了し、用地を購入した)
  - 平成21年度 函館テクノパーク 1件 (令和元年度で貸付終了し、用地を購入した)
  - 平成22年度 函館テクノパーク 1件 (令和2年度で貸付終了し、用地を購入した)
  - 平成25年度 函館テクノパーク 1件
  - 平成27年度 函館テクノパーク 1件
  - 平成30年度 函館テクノパーク 1件
  - 令和2年度 函館テクノパーク 1件
  - 令和3年度 函館テクノパーク 2件

### 3 立地関係補助金交付企業等

(令和4年7月現在)

区分	S60～H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	合計
企業数	50	6	6	4	1	1	2	4	74

- 掲載企業
1. 函館臨空工業団地立地企業（用地購入のみの企業を含む）
  2. 函館テクノパーク立地企業（同上）
  3. 港町ふ頭港湾関連用地立地企業（同上）
  4. 旧工業振興促進条例補助金交付企業のうち新規立地分
  5. コールセンター立地補助金交付企業のうち新規立地分
  6. 企業立地促進条例補助金交付企業のうち新規立地分
  7. 太陽光発電事業を目的として市有地に立地した企業（用地賃借のみの企業を含む）
  8. 倒産（破産）・撤退等は除く
- ※上記4～6は補助金交付年度で集計をしているため、実際の立地年度とは異なる。

### 4 地域未来投資促進法に基づく基本計画

#### (1) 経過

- 平成29年 7月31日 地域未来投資促進法施行
- 平成29年 8月31日 基本計画提出
- 平成29年 9月29日 国が基本計画に同意
- 平成29年11月10日 変更基本計画提出
- 平成29年12月22日 国が変更基本計画に同意

#### (2) 函館地域基本計画の概要

促進区域	函館市，北斗市，七飯町（函館地域）		
目標	函館地域における付加価値の創出	454百万円	
	地域経済牽引事業の新規事業創出	8件	
	地域経済牽引事業の雇用増	32人	
	地域経済牽引事業の平均付加価値額	40百万円	
概要	<p>函館市・北斗市・七飯町は、港をベースとする水産・海洋関連産業を中心に発展し、特に食料品製造業の製造品出荷額等は、約1,193億円となっており函館地域の製造業全体の48%を占める基幹産業となっている。このほか、システム情報科学に特化した公立はこだて未来大学や、ものづくり技術などの先端技術を有する函館工業高等専門学校などの高等教育機関も集積しており、近年では積極的にIoT・AI関連企業の研究開発拠点を誘致し、新産業創出や雇用拡大を目指している。</p> <p>こうした地域特性を生かした事業を推進し、企業の生産性向上や付加価値向上を図り、経済の好循環を創出することを目指す。</p>		

#### (3) 函館地域経済牽引事業促進協議会の概要【R1.5.8設立】

##### ア 構成員

函館市，北斗市，七飯町，北海道，函館商工会議所，北斗市商工会，七飯町商工会，（公財）函館地域産業振興財団，北海道大学大学院水産科学研究院，公立はこだて未来大学，函館工業高等専門学校

##### イ 設置目的

地域経済牽引事業の促進及び地域の成長発展の基盤強化に関し必要な事項について協議を行うことにより、地域における地域経済牽引事業の促進及び地域の成長発展の基盤強化のために、地域の地方公共団体が行う主体的かつ計画的な取組に寄与することを目的とする。

#### (4) 東日本大震災の被災企業支援【H23.6.1制定 H29.4.1廃止】

##### ア 目的

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により被災した企業や、夏場の電力不足等により事業への影響が想定される首都圏等の企業、リスク分散のために工場等の移転を検討している企業などの事業活動を支援するため

の優遇措置を講じる。

イ 内 容【それぞれの廃止要綱，改正基準により経過措置あり】

- ① 工業団地の無償貸付
- ② 工場等の新設に対する助成制度の優遇措置
- ③ 函館市産業支援センター使用料の減免

ウ 対象となる企業

- ① 東日本大震災により直接的な被害を受けた企業（事業所または主要な事業用資産について，全壊，流失，半壊，床上浸水，その他これらに準ずる被害を受けた企業）
- ② 東日本大震災により災害救助法が適用された地域に事業所等を有する企業（青森県，岩手県，宮城県，福島県，茨城県，栃木県，千葉県および東京都の指定された市町村）
- ③ 首都圏（東京都，埼玉県，千葉県，神奈川県，茨城県，栃木県，群馬県，山梨県）または静岡県（市長が指定する区域に限る）の区域内に事業所等を有する企業

(5) ものづくりシティセールス事業

ア 目 的

本事業は函館の産学官金が連携して首都圏企業等にシティセールスを行い，函館地域の産業・企業・技術・素材等を首都圏等の企業ニーズに結び付け，地域産業の活性化や企業誘致の実現を図る。

イ 令和3年度事業実績

①ビジネス意見交換会

【第1回】

- ・実施日 令和3年4月27日
- ・実施場所 オンライン（Zoomウェビナー）
- ・実施内容 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）が開催するIT企業を対象としたアライアンスビジネス交流会において，函館市および公立はこだて未来大学，ハコレコドットコム(株)によるプレゼンの実施

(6) 企業誘致アンバサダー制度事業

ア 目 的

民間企業等が持つネットワークを企業誘致に活かすため，本市がこれまで行ってきた「ものづくりシティセールス事業」などのシティセールスを通じ，本市との繋がりを得る中で函館のファンになった企業人等を「アンバサダー（大使）」に任命し，企業誘致活動等の体制強化を図る。

イ 任命者（制度開始：平成27年度～）

株式会社アクロクレイン	代表取締役 須田 誠 氏
株式会社アサヒ	代表取締役 宮野 学 氏
株式会社エスイーシー	取締役本部長代理 大倉 義孝 氏
Okapi service	代表 岡崎 英人 氏
宏輝株式会社 函館事業所	部長補佐 梅津 彰 氏
株式会社日本政策金融公庫 千住支店	支店長 久崎 裕朗 氏
株式会社函館スチールセンター	代表取締役 村上 眞二 氏
株式会社ビックボイス	代表取締役 佐々木 治郎 氏
株式会社村瀬鉄工所	代表取締役 村瀬 充 氏

## (7) 若者の地元定着支援事業

## ア 目的

市内の大学生向けに地元企業や誘致企業との交流の場を提供し、学生に地元企業を知ってもらうことで、企業の人材確保や若者の地元定着を図る。

## イ 令和3年度事業実績

## ①地元企業の先輩達とのトークセッション2021

- ・実施日 令和3年11月24日
- ・実施場所 オンライン開催
- ・実施内容 地元企業に勤める若手社員より、具体的にどんな仕事・生活をしているのか、リアルな話を聴くことで、自らのキャリアについて考えるきっかけとしてもらう。
- ・参加企業 (株)メデック, 日新電子工業(株), (株)ワダエンジニアリング, ハコレコドットコム(株), (株)クロス・プロップワークス, (株)エスイーシー
- ・参加学生数 8名

## (8) ワークेशन促進事業

## ア 目的

本事業はワークेशनの導入を検討している北海道外の企業およびワークेशनを通じて地域との交流やビジネス的なつながりを求めている企業を対象にワークेशन体験ツアー等や函館でのワークेशनのPRを実施し、ワークेशनをきっかけとした地域産業の活性化や企業誘致の実現を図ることを目的とする。

## イ 令和3年度事業実績

## ①ワークेशन体験ツアー

- ・実施日(出発日) 令和3年8月24日, 令和3年8月31日, 令和3年9月2日, 令和3年9月21日, 令和4年1月20日, 令和4年1月27日, 令和4年2月17日
- ・参加企業数 25社
- ・参加者数 30名
- ・実施内容 ワークेशन体験ツアーを開催, ワークेशनコンシェルジュを設置し, 参加者の趣味趣向に合ったアクティビティの提案や, ビジネスマッチング等のニーズにも個別に対応。初日にはオリエンテーションにて函館市の概要を紹介し, 最終日は意見交換会を設けて参加者から実際に函館でワークेशनを実施してみたのフィードバックをいただいたほか, ツアー終了後に参加者へのアンケート調査を実施し, 具体的なニーズや課題点を抽出した。

## (9) サテライトオフィス開設等支援事業

## ア 目的

本事業は, 新型コロナウイルス感染症拡大を契機として, 地方でのサテライトオフィス開設やテレワークを活用した移住・滞在の取組等を支援し, 地方への新たな人の流れや, 地方分散型の活力ある地域社会の実現を目的とした, 国の地方創生テレワーク交付金を活用することにより, 民間でのサテライトオフィス開設を支援し, 企業誘致, 移住等へつなげ, 地域の活性化を図ることを目的とする。

## イ 令和3年度事業実績

## ①サテライトオフィス整備事業費補助金

- ・実施内容 民間事業者によるサテライトオフィス開設, 運営等に係るハード, ソフト経費を支援

- ・採 択 2者
- ・支援施設 HAKOWORKS（函館市大手町18-7 NEWPORT BLDG 2階）  
KMB Aワーケーション函館ワーケーション函館（函館市元町14-14）

②サテライトオフィス入居企業誘致事業

- ・実施内容 サテライトオフィス整備事業費補助金を活用して整備したサテライトオフィスにより多くの企業を呼び込むため、地方進出を検討している企業を抽出し、検討企業に対して訴求力のあるPR媒体を制作するとともに、本市への進出見込みがある企業と本市職員との面談の機会を設ける
- ・企業抽出 6千社にアンケート調査を実施した結果、回答数70社（うち函館に関心あり32社）
- ・企業紹介 オンライン面談に道外企業9社が参加

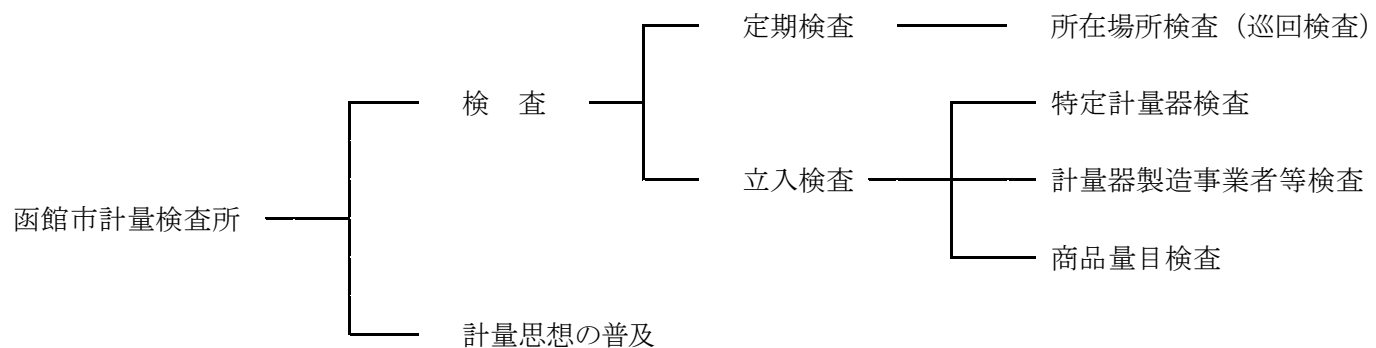
③サテライトオフィス利用企業支援補助金

- ・実施内容 サテライトオフィス整備事業費補助金を活用し整備されたサテライトオフィスを利用する函館市外の企業に対し、オフィス開設時等の企業負担を支援
- ・交付企業 4社

## IX 計量行政の概要

計量に関する制度は、貨幣制度とともに社会生活において最も基本的なもので、統一性かつ合理性を必要とされている。本市の計量行政は、昭和38年4月1日に国の計量特定市指定後、計量検査所を設置し、市民の利益を擁護するとともに、公正な取引が行われるよう適正計量の実施や計量思想の普及を推進してきている。

平成12年4月には、計量行政の機関委任事務制度が廃止となり、地方自治体の処理する事務が自治事務と法定受託事務とに再構成されたことから、本市は、計量法および函館市計量検査所条例に基づき、定期検査や計量器を使用する事業者等への調査・指導および立入検査を重視する行政を推進し、不適正な計量器および商品の早期発見・排除に努めるとともに、計量展など計量に関する諸事業により、市民が身近に感じる計量行政の推進に努めている。



### 1 定期検査

計量法の規定に基づき、取引・証明に使用される「はかり」について検査を行い、不適正計量器を排除し、取引等の安全を推進している。

定期検査は2年に1回の検査とし、検査地区を偶数年および奇数年の実施に区分し、各事業所に出向く巡回方式で実施している。

区 分	検 査 数			不 合 格 数		
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
検 査 戸 数	602	689	572	24	33	37
所 要 日 数	76	77	65	—	—	—
はかり検査台数	1,949	2,217	1,808	37	45	52
おもり・分銅検査個数	475	293	436	—	—	—
はかり等検査件数計	2,424	2,510	2,244	37	45	52
不合格率 (%)	戸 数 (%)			4.0	4.8	6.5
	件 数 (%)			1.9	2.0	2.9

### 2 立入検査

#### (1) 特定計量器立入検査

一般市民に直接関係ある計量器について立入検査を行い、計量器の正確と取引の安全等を指導し、適正な計量の実施確保に努めている。

#### ア 燃料油メーター

区 分	調査戸数	不適正戸数	検査件数	不適正件数	不適正率 (%)	
					戸数	件数
令和元年度	14	0	217	0	0.0	0.0
令和2年度	9	1	151	4	11.1	2.6
令和3年度	10	0	115	0	0.0	0.0

#### イ 証明用子メーター (電気・ガス・水道)

区 分	調査戸数	不適正戸数	検査件数	不適正件数	不適正率 (%)	
					戸数	件数
令和元年度	4	2	14	5	50.0	35.7
令和2年度	56	17	422	42	30.4	10.0
令和3年度	4	4	81	12	100.0	14.9



(2) 量目立入検査

流通の最も盛んな中元期および歳末期に百貨店・スーパーマーケットにおいて、食料品の量目検査を実施している。

ア 検査結果

区 分	検査戸数	不適正戸数 (不足公差外)	検査件数	不適正件数 (不足公差外)	不適正率 (%)	
					戸 数	件 数
令和元年度	44	2	2,965	27	4.5	0.9
令和2年度	21	3	1,005	19	14.3	1.9
令和3年度	43	2	2,870	25	4.7	0.9

イ 違反者に対する処理

立入検査で違反が発見された場合、現場で注意するとともに直ちに改善を指示し、状況に応じて改善指導書等を発行して、適正計量の確保に努めている。

区 分	現場戒諭	注 意 書	改善指導書	改善指示書	改善勧告書	警 告 書
令和元年度	9	0	0	-	-	-
令和2年度	6	0	0	-	-	-
令和3年度	12	0	0	-	-	-

3 家庭用計量器無料巡回検査

精度確認の機会がない家庭用計量器について、町内会等を巡回して検査を実施し、家庭用計量器の精度保持や計量思想の普及に努めている。

区 分	ヘルスマーター		キッチンスケール		体 温 計		血 圧 計	
	件 数	不適正	件 数	不適正	件 数	不適正	件 数	不適正
令和元年度	28	7	56	3	59	8	31	1
令和3年度	24	3	20	1	46	2	35	0

※令和2年度中止。

4 計量展の開催

くらしの中で計量の果たしている重要な役割や計量制度の意義をパネルや展示品でPRするほか、お楽しみ重さあて等ゲームコーナーを設け、広く市民に対して計量思想の普及啓発を図っている。

期 間 令和3年11月6日(土) 10:00~15:00

会 場 テーオーデパート1階サンシャワー広場

入場者 143人

5 計量関係事業者等

(1) 計量関係事業者数(令和4年3月末日現在)

届出製造事業者 4社 届出修理事業者 14社 届出販売事業者 86社

計量証明事業登録者 7社 適正計量管理事業所 85事業所

(2) 計量関係団体

(令和4年3月末日現在)

名 称	会員数	構成内容	設立時期
北海道計量協会函館支部	23	計量関係事業者および団体	大正2年9月

## X 雇用環境の向上

長引く新型コロナウイルス感染症の影響などを背景に、地域の雇用環境は厳しい状況が続く中で、依然として雇用のミスマッチや一部職種で生じている人手不足は解消されておらず、労働移動が進んでいないほか、人口減少や若者の市外流出による生産年齢人口の減少に伴う企業の人材確保や若者の地元定着、女性の雇用拡大などが課題となっている。

こうしたことから、公共職業安定所など関係機関と連携し、雇用機会を創出・促進する雇用対策のほか、企業の採用活動支援やU I J ターンの促進、若者や女性・高齢者等の潜在人材の就労支援に取り組むとともに、地域の活性化に資する技能者の育成に努めるものである。

### 1 雇用対策の推進

#### (1) 労働問題懇談会の開催 (H20～)

経済団体や労働団体など関係機関との意見交換等を通じて、労働問題についての現状を把握し、雇用・労働環境の向上を目指す労働問題懇談会を開催する。(平成30年度より必要に応じて開催)

平成27年度	1月18日	女性が働きやすい職場環境について
平成28年度	2月14日	若者の早期離職と職場定着について
平成29年度	6月27日	若者の早期離職と職場定着について

#### (2) 労務状況調査の実施 (S37～)

市内企業の雇用実態を把握し、労働条件の改善、労働力の確保・定着のための基礎資料とすることを目的に、函館市内の事業所を対象に実施する。(平成29年より隔年で実施)

令和3年度	従業員10人以上の全事業所	調査数	1,960件	回答数	728件
	従業員10人未満の抽出事業所	調査数	872件	回答数	251件

#### (3) 雇用促進支援制度の周知啓発

雇用促進支援制度情報コーナーでの情報発信 (H30～)

市のホームページ上に、雇用促進支援制度情報コーナーとして、国や道などの雇用促進のための助成制度や支援策をまとめて情報発信する。

#### (4) 若手社員職場定着率向上研修の開催 (H23～)

若年労働者の職場定着を図るため、地元企業の人事・労務担当者に対する学卒就職者の職場定着のノウハウや若手社員に対する職場定着の意識付けを行う研修を実施する。

令和3年度	若手社員向け	9月17日	14社	34人
	人事担当者向け	10月8日, 13日	13社	20人

#### (5) 労働者ハンドブックの作成 (H20～)

最低賃金や有給休暇等、労働者の適正な雇用や権利を擁護する制度や知識等をまとめたハンドブックを作成する。

令和3年度 市HPにデータを掲載

#### (6) 地域再生計画の策定、推進 (H27～R4)

地域経済の活性化と雇用の創出を図るため、地域再生法に基づく地域再生計画を策定し、市独自の観光、産業振興施策を通じた雇用創出の取り組みと、国の支援措置を活用した取り組みを行う。

地域再生計画の名称：函館ブランド確立による雇用創出・拡大プロジェクト

活用する支援措置：地域再生支援利子補給金制度(内閣府)、実践型地域雇用創造事業(厚生労働省)

#### ア 地域再生支援利子補給金の活用 (H27～R4)

内閣総理大臣の認定を受けた金融機関に対し、函館市における新たな雇用機会の創出を伴う事業基盤の強化拡張や新分野進出・新規創業等の取り組みに必要な資金を貸し付ける場合の利子補給を行う。

これにより、地域再生に資する事業の実施者は事業資金を低利で借入れることができるため、事業の円滑な実施や雇用機会の創出等が期待される。

基本要件：計画の推進に資する事業で、食関連産業分野、観光関連産業分野、情報関連産業分野のいずれかに該当する事業

雇用要件：新規常用雇用（常用パートを含む）を1人以上創出

事業費要件：総事業費が2,500万円以上（ただし、土地のみの取得は対象外）

その他：金融機関は平成30年3月31日までに内閣府と利子補給契約を締結

#### イ 実践型地域雇用創造事業の実施（H27～29）

はこだて雇用創造推進協議会において、厚生労働省委託事業である実践型地域雇用創造事業に取り組み、人材育成や新たな商品の開発などを通じ、地域経済の活性化、雇用の創出を図る。

##### <実践型地域雇用創造事業>

事業タイトル ヒトを呼び、モノを売る～函館ブランド確立による雇用創出・拡大プロジェクト

重点分野 地域資源（食・観光）分野、情報関連産業分野

主な事業内容 戦略的販売促進研修、即戦力養成講座（観光コース・パソコンコース）

函館地域合同企業説明会、地域資源を活用した新商品の開発および販路の開拓 等

雇用創出目標 273人（3年間）

##### <はこだて雇用創造推進協議会>

設立 平成21年2月9日

構成 函館市、渡島総合振興局、函館商工会議所、連合北海道函館地区連合会、（公財）函館地域産業振興財団、（一社）函館国際観光コンベンション協会、公立はこだて未来大学

代表 函館市経済部長

事務局 函館市経済部

事業実績 実践型地域雇用創造事業

区分	アウトプット ※1		アウトカム ※2	
	計画	実績	計画	実績
平成27年度	80社 180人	90社 182人	61人	71人
平成28年度	195社 340人	236社 349人	106人	127人
平成29年度	195社 340人	226社 324人	106人	113人
合計	470社 860人	552社 855人	273人	311人

※1 協議会事業を利用した事業所数および求職者数

※2 事業を利用した求職者等のうち雇用された（した）者の人数

#### （7）一体的実施事業（H24～）

市や国が実施する生活・職業相談を一体的に実施することで、住民サービスの向上を図るために開設。

##### ア 函館市しごと相談コーナーの開設（H24～）

開設年月日 平成24年4月1日

開設場所 本庁舎1階

相談員 市：生活相談等（経済部職員兼務）

国：職業相談・職業紹介・求人情報の提供（2名）

##### イ 函館市就労支援コーナー（ジョブファインかめだ）の開設（H27～）

開設年月日 平成27年10月27日

開設場所 亀田支所2階

相談員 市：住居・生活困窮者に対する相談等（福祉事務所職員兼務）

国：職業相談・職業紹介・求人情報の提供・生活保護受給者等の就労支援（2名）

(8) 就職促進マッチング支援事業(R3～)

新型コロナウイルス感染症の影響による離職者や新規学卒未就職者等の就職を支援するため、合同企業説明会を開催し、コロナ禍においても人手不足の事業者と求職者とのマッチングを図るとともに、本説明会に参加し、雇用のマッチングが成立した事業者に対し奨励金を支給する。

奨励金 正規雇用労働者 1人あたり15万円  
短時間労働者 1人あたり10万円 ※1社上限3人まで  
合同企業説明会 4回開催（令和3年7月2日，8月20日，9月22日，11月5日）  
令和3年度 就職決定者 24人 奨励金 1件 15万円（正規雇用）

(9) ジョブカフェ・ジョブサロン函館の開設（H24～）

若年者を対象とするジョブカフェと、中高年齢者を対象とするジョブサロンを一体化し、北海道と共同で開設。

開設年月日 平成16年7月1日（ジョブカフェ函館）  
平成24年4月2日（ジョブサロン函館）  
開設場所 テーオーデパート6階（平成24年7月2日 サン・リフレ函館から移設）  
開設日時 午前10時～午後5時（土・日・祝日および年末年始を除く）  
利用実績 ジョブカフェ函館分（※平成25年度～：ジョブカフェ・ジョブサロン函館分）

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者数（人）	2,206	1,699	1,894	1,681	1,731
進路決定者数（人）	325	354	415	103	119

(10) 新規高卒予定者求人要請の実施

新規高卒予定者の求人要請のため、函館公共職業安定所等関係機関で経済団体を訪問する。

令和3年度 6月

函館公共職業安定所，渡島総合振興局，渡島教育局，函館市，渡島町村会，北海道高等学校長協会道南支部

(11) 新規高卒者就職面接会の実施

市内企業と新規高卒者との面接会を開催する。

主催 函館公共職業安定所，渡島総合振興局，檜山振興局，北海道渡島教育局，北海道檜山教育局，函館市，  
ジョブカフェ北海道

令和3年度 11月16日 参加企業 25社 求人 224人  
参加者 28人 内定者 18人

(12) 若年無業者職場体験事業の実施（H24～）

若年無業者の職場体験の機会を設け、就業意欲の向上・早期就労を促進するための事業を「地域若者サポートステーション事業」の受託団体で、「はこだて若者サポートステーション/はこだてサポステ・プラス」を運営するキャリアバンク（株）に委託して実施する。

内容 職場体験，面談・カウンセリング，就労支援サポート等  
令和3年度 体験者数 14人

(13) 函館市若者自立支援ネットワーク連絡会議の設置（H22～）

若者の職業的自立を支援する「地域若者サポートステーション事業」を核として、関係機関等の連携強化を図り、より効果的な展開を目指すことを目的に設置。

設置 平成22年4月1日  
構成 北海道，函館市，函館公共職業安定所，北海道若年者就職支援センター，北海道立函館高等技術専門学院，函館商工会議所，（一社）北海道中小企業家同友会函館支部，はこだて若者サポートステーション/はこだてサポステ・プラス

(14) 障がい者雇用促進セミナーの開催（H23～）

障がい者の雇用の受け皿を増やし、雇用促進を図るため、企業向けセミナーを開催。

主 催 函館市

共 催 (一社)北海道中小企業家同友会函館支部

後 援 函館公共職業安定所, 函館商工会議所

令和3年度 開催日 2月21日(オンライン開催) 内容 講演, グループ討議 参加者 57人

(15) 障がい者雇用促進フェアの開催

障がい者の雇用促進を図るため、「集団お見合い方式」による雇用促進会を開催。

主 催 函館公共職業安定所

共 催 渡島総合振興局, 北海道労働局, 函館市

後 援 北海道障害者職業センター

令和元年度 開催日 10月11日 参加企業 22社 参加者 約90人

(令和2, 3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)

(16) 高年齢者雇用就業パネル展の開催 (S61~)

高年齢者の雇用と就業についての理解と啓発を目的にしたパネル展を開催。

主 催 函館市, 函館公共職業安定所, (公社)函館市シルバー人材センター

令和元年度 10月21日~25日 見学者延べ1,353人

(令和2, 3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)

(17) シルバー人材センターへの支援 (S55~)

定年退職等において、臨時的・短期的な就業を通じて、高年齢者の就業機会増大と福祉の増進を図るために設立された(公社)函館市シルバー人材センターに対し補助金を交付する。

設 立 昭和55年7月1日

令和3年度 会員数 800人 就業延日人員 81,882人

受注件数 6,395件 受注額 257,132千円

補助金額 14,329千円

(18) 子育て女性等の就職支援 (H20~)

平成20年5月28日にハローワークに開設されたマザーズハローワーク事業を円滑に実施するため、構成団体相互の施策の理解を促進し、必要な情報を共有し、子育て女性等の就職支援に係る具体的な連携事項を協議する。

設 置 平成20年9月25日

構成員 函館公共職業安定所長, 渡島保健環境部社会福祉課主幹, 函館市雇用労政課長, 子育て支援課長, 市民・男女共同参画課長, 北斗市社会福祉課長

(19) ひとり親の支援

ひとり親家庭等雇用促進補助金 (R元~)

市内在住のひとり親家庭の父母等を継続雇用した事業者に対し、国から支給される特定求職者雇用開発助成金に、市独自で補助金を上乗せ支給する。

令和3年度 16件 (短時間労働者以外 14件 短時間労働者 2件)

(20) 外国人労働者採用セミナーの開催 (R元~R3)

市内企業における外国人労働者の適正な受け入れ環境の整備を支援するため、在留資格や外国人雇用に関する理解を深めるとともに、専門家による個別相談を行うセミナーを実施する。

内 容 制度の基本知識, 事例紹介, 受入環境の整備, 各種手続きに関する個別相談等

令和元年度 開催日: 1回目 令和元年10月31日 参加者20社

2回目 令和2年2月26日 参加者10社

(令和2, 3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)

## 2 労働福祉対策の推進

### (1) 労働福祉事業の推進

労働団体が実施する労働・法律相談事業に対し補助する。

補助金の額：補助対象経費の2分の1以内

対象団体：連合北海道函館地区連合会（H5～），全労連・函館地方労働組合会議（S34～）

### (2) 季節労働者対策の推進

季節労働者通年雇用促進支援事業の実施（H19～）

季節労働者の通年雇用の促進を図ることを目的に、函館季節労働者通年雇用促進支援協議会において技能講習やセミナーなどの各種事業を実施する。

<函館季節労働者通年雇用促進支援協議会>

設立 平成19年7月30日

構成 函館市，渡島総合振興局，函館商工会議所，連合北海道函館地区連合会

代表 函館市経済部長

事務局 函館市経済部

事業内容 事業所・季節労働者向けセミナー，パソコン講習，各種技能講習等

事業実績 通年雇用促進支援事業

区 分	アウトプット ※1		アウトカム ※2	
	計画	実績	計画	実績
平成29年度	1,182社 202人	1,100社 90人	51人	201人
平成30年度	1,120社 177人	1,079社 50人	44人	139人
令和元年度	1,070社 148人	1,035社 41人	37人	67人
令和2年度	1,018社 146人	904社 63人	33人	70人
令和3年度	918社 130人	754社 62人	30人	57人
令和4年度	818社 134人	—	27人	—

※1 協議会事業を利用した事業所数および求職者数

※2 事業を利用した求職者等のうち通年雇用された（した）者の人数

### (3) 勤労者融資対策の促進

道内の勤労者の信用力を補完し，金融の円滑化を図り，経済的地位と福祉の向上に寄与するため設立された（一財）北海道勤労者信用基金協会に対し出捐した。（S57, 58, H16）

### (4) 勤労者総合福祉センター（愛称：サン・リフレ函館）の運営（H15～）

ア 目的 勤労者に心身の健康の維持のための施設等を提供することにより，勤労者の福祉の充実および勤労意欲の向上を図り，もって雇用の安定に資するための施設を運営する。

イ 設置経過 地区体育館機能を兼ね備えた総合な福祉施設として，雇用・能力開発機構との合築により旧旭中学校跡地に建設し，平成15年度に国の特殊法人等整理合理化計画に基づき，同機構から購入した。

平成 9年9月 6日 雇用・能力開発機構が開設（地区体育施設分は市が一部負担）

平成15年8月29日 函館市に譲渡

ウ 施設の概要 所在地 函館市大森町2番14号

構造 鉄筋コンクリート造一部2階建

延床面積 3,846.26㎡ 敷地面積 9,669.08㎡

施設内容 会議室（大・中・小），視聴覚室，和室研修室，工芸実習室，音楽室，軽体育室，アリーナ，軽食喫茶室，事務室等 駐車場 148台，駐輪場50台

エ 利用状況

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者数（人）	135,727	129,798	123,743	59,962	65,065

オ 指定管理者 (公社) 函館市シルバー人材センター

3 人材育成・確保の促進

(1) U I J ターン事業の推進 (H2～)

ア U I J ターン相談コーナーの開設 (H2～)

U I J ターン希望者の就業支援と，地元企業の高度な知識や技術を有する人材不足の解消を図るため「函館市 U I J ターン相談コーナー」をW e b 上に開設し，求人・求職情報の提供および求職者と求人企業の橋渡しを実施する。

- 平成 2年9月 1日 Uターン希望者相談コーナー開設
- 平成10年4月 1日 I J Uターン希望者相談コーナーに名称変更
- 平成20年7月 4日 無料職業紹介事業としてW e b 上に開設
- 平成28年9月30日 相談コーナーを「函館しごとネット」内に移設
- 令和 3年4月 1日 U I J ターン希望者相談コーナーに名称変更

<函館市U I J ターン無料職業紹介所>

開設年月日 平成20年7月4日（許可番号 01-地-000008）  
 令和3年度 有効求職者数 157人  
 有効求人数 277人（98社 126件）  
 就職決定者数 6人  
 （平成2～16年度 188人，平成20～令和2年度 41人）

イ 函館しごとネットの運営 (H28.9～)

就職ポータルサイト「函館しごとネット」内でU I J ターンに関する無料職業紹介事業を行うとともに，市内企業の情報，就職イベント情報など仕事に関する様々な情報を一元的に発信する。令和3年9月から市内求人情報を掲載。

(2) 北海道U I J ターン新規就業支援事業 (R元～)

東京圏からのU I J ターンを促進するため，地方創生推進交付金を活用し，北海道が開設するマッチングサイトでの求人広告の提供や，移住者の経済的負担を軽減する移住支援金の支給など，北海道と道内市町村が連携して事業を実施する。

- 移住支援金 単身で移住した場合 60万円  
世帯で移住した場合 100万円
- 移住要件 5年以上東京23区に在住または東京圏に在住しかつ東京23区へ通勤していた者 等  
申請時において，函館市へ転入後3か月以上1年以内の者 等
- 就業要件 北海道が開設するマッチングサイトに掲載された求人に応募し就業した者 等
- 起業要件 北海道が実施する起業支援金の交付決定を受けた者
- ワーク要件 所属先企業等からの命令ではなく，自己の意思により移住し，函館市を生活の本拠とし，移住元での業務を引き続き行うこと
- 令和2年度 支給実績 1件 600千円（単身・起業）

令和3年度 支給実績 0件 0千円

(3) 女性の再就業支援事業 (H27～R3)

子育て等により離職した女性の就業機会の創出を図るため、就業に必要なスキルを習得させる研修やカウンセリング、企業説明会を実施し、就業支援を行う。

内 容 ビジネスマナー、PC基礎、ワークライフバランス等の就業に必要な基本的な知識・スキルを習得する研修、企業説明会、研修中の託児サービス等

令和3年度 就業支援数 69人 就業者数 40人

(4) 女性・高齢者の多様な働き方促進支援事業の実施 (R3～)

子育てや家事、介護等の時間の制約や家庭と仕事との両立の不安から、働きたくても働くことのできない女性や高齢者の潜在的な労働力の活用を図るため、『短時間就労（短時間、少日数）』を生み出し、働く方の生活に合わせる事が可能な多様な就業形態による雇用創出に取り組む企業と潜在人材とのマッチングを図る。

令和3年度（モデル事業として実施）

企業向け導入支援セミナー 参加企業12社

潜在人材（女性・高齢者向け）就職基礎講座 参加者20人

おしごと説明会 参加企業22社 参加者71人

就職支援 就職決定者12人

(5) しごとフェスタの開催 (R元～)

地元の高校生の多くは、地元企業・産業を知らないまま市外の大学や専門学校等へ進学するため、その後就職・転職を希望する段階において、地元企業が就職先になりづらい傾向にある。このことから、将来的なUターン就職時による地元就職の促進を図るため、進学前に地元企業と接点を持つ地元高校生を対象にイベントを開催する。

（令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止）

令和3年度開催結果 日 時 令和3年11月12日（金）

会 場 函館アリーナ（函館市湯川町1-32-2）

参加者数 函館市内近郊の高校生 835人

参加企業 地元企業17社

(6) はこだてエリア企業採用情報発信支援事業費 (R3～)

大手民間就職情報サイトに、市内企業の採用情報等を一括掲載し、効果的な情報発信を行うとともに、掲載企業の採用充足率向上を図るため、採用活動の伴走支援を行う。（業務委託により実施）

掲載企業一部負担金 1社あたり11万円

令和3年度 マイナビ2022へ市内企業20社の情報を掲載

21人採用（採用充足率56.8%）

(7) 技能労働者の育成

ア 中小企業認定職業訓練校への助成 (S40～)

中小企業における認定職業訓練の実施を促進・奨励するため、認定職業訓練団体等に対し函館市中小企業振興基本条例第8条に基づき補助金を交付し、職業人として有為な技能者の育成・確保に努める。

補助金額 訓練生1人につき8,000円

補助対象職業訓練校 函館総合建設高等職業訓練校

令和3年度 訓練生 20人

イ 渡島地方技能訓練協会への助成 (S49～)

技能検定と産業人の能力開発向上、技能者育成事業を行っている本協会の運営費に対し補助する。

ウ 技能尊重運動の推進

技能労働者が広く一般社会にその能力に応じ適正に評価されるよう、技能尊重気運の醸成を推進する活動を支援する。



技能フェア（令和2，3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止）

（8）職業訓練センターの運営（S45～）

ア 目的 職業に必要な技能の習得および向上を図り，職業人として有為な労働者を養成するための施設を運営する。

イ 開設年月日 昭和45年4月1日（現在地移転昭和47年11月13日）

ウ 施設の概要 所在地 東川町1番2号  
施設内容 教室4，実習室3，講堂1，指導員室1，事務室1 ほか

エ 利用状況

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者数（人）	4,823	4,887	4,844	4,016	4,992

オ 指定管理者 渡島地方技能訓練協会